

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一

審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ五六三、五四八

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遲クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終

結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許スニ

〇九、一一七、二六三、二五五、三九四、五五九ノ二號、五六一ノ二、五六二ノ三、民四七四一五二〇

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

強制執行ニ對スル異議ノ訴

府縣市町村番地族業

原告人

氏

名

府縣市町村番地族業

被告人

氏

名

訴訟ノ目的

年何第何號ノ強制執行ヲ排除スルヲ以テ目的トス

請求ノ原因

原告人ハ年何第何號ノ確定判決ニ因リ強制執行ニ着手シタルモ第何號證ノ如ク何々事實ニテ(相殺、更改、混同)其ノ債務已ニ消滅シ目下執行シ得ヘキモノニアラサルニ被告人ハ其執行文ノアルヲ奇貨トシ強制執行ニ着手シタルハ不當ナルヲ以テ該執行ヲ爲ス可カラストノ判決受度茲ニ及訴求候也

立 證

何々ヲ以テ立證ス

一定ノ申立

右ノ事實ナルヲ以テ已ニ着手スル強制執行ヲ排除スト判決相成度候也

年月日

原告人

氏

名

何裁判所判事

名殿

(注意、右ノ訴ノ判決文例ハ第二三拾六條ノ文例ニ準ス但シ強制執行ノ停止ヲ命シ又ハ其命シタルモノヲ取消シ變更ヲ認可スル時ハ判決ノ主文中ニ記載シ又ハ其假執行ヲ命スル時ハ之ヲ宣告スヘシ(五四八)

實例民事訴訟法 強制執行 總則

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ争ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ争フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケララルコト無シ

本條ノ條件到來ト認メラレ又ハ承繼アリト認ラレテ執行文ヲ付與セラレタル異議ノ文例ハ前條ノ文例ニ準ス其判決文例モ前全一ナリトス

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケララルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強

制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得五〇〇、五五〇

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

本條第二項ノ強制執行停止ノ申立ノ文例ハ第五百四拾四條ノ文例ニ準ス又其停止ノ決定モ同條ノ文例ニ準ス第四項ノ執行裁判所ヘ爲ス強制執行停止ノ申立並ニ其停止命令ノ文例ハ第五百四拾四條ノ文例ニ異ナル處アルヲ以テ左ニ之ヲ示ス可シ

強制執行停止ノ申立

府縣市町村番地族業

申立人 氏

名

府縣市町村番地族業

被申立人

氏

名

請求ノ趣旨

右當事者間ノ年何第何號ノ何々事件ニ付キ被申立人ヨリ申立人ニ對シ強制執行ヲナシ來リタルモ何々ノ理由ニヨリ執行スヘカラサルモノナルヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ヘ執行排除ノ爲メ異議ノ訴ヲ提起セントスルモ其間ニ於テ強制執行ヲ實行セラルルニ於テハ異議ノ訴ハ効用ヲナササルニ因リテ停止ヲ受訴裁判所ニ要メントスルモ事實急迫ノ際ナルヲ以テ停止ノ命令ヲ受訴裁判所ニ仰クコト能ハサルニ付キ何卒情御推察ノ上強制執行停止ノ御命令御發シ相成度申請仕候也但シ保證ハ御命令次第供託可仕候也

附屬書類

一何々

年月日

申請人

氏

名

何裁判所判事

氏

名

強制執行停止決定

府縣市町村番地族業  
申請人 氏

名

府縣市町村番地族業

被申立人

氏

名

右當事者間ノ年何第何號事件ニ付キ申立人ヨリ第一審ノ受訴裁判所ヘ被申立人ニ對シ強制執行ヲ爲スヘカラストノ訴ヲ提起セントシタルモ事實急迫ナル場合ナルヲ以テ強制執行ノ停止ノ命令ヲ發セラレ度旨申立タリ當裁判所ハ其申立ヲ至當ナリト認メ申立人ニ金何圓ノ保證ヲ命シタルニ申立人ハ金何圓ノ保證ヲ供託シタリ仍テ左ノ如ク決定ス

本按ノ強制執行ハ異議ノ判決アルマテ一時之ヲ停止ス但シ申立人ハ此決定ノ送達ヨリ何月内ニ受訴裁判所ノ裁判ノ提出スヘシ

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

第五百四十八條

受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得  
五四四、五四六、  
判決中前項ニ掲ケル事項ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ  
右裁判ニ對スル下服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス五一、

實例民事訴訟法 強制執行 總則

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ五六五ノ一、五四五、民三四二以下

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス五一、四八一五〇

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス五六三、五四七、五四八

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ第三者ノ異議ノ主張ノ訴ノ文例ハ第五百四拾五條ノ異議ノ訴ノ文例ニ準ス但シ當事者ノ表示ハ債權者ニ以テ被告トス然レトモ債務者ニシテ第三者ノ主張ヲ認メサル時ハ債務者ヲ共同被告トス可シ

其判決ノ文例ハ第二百三拾六條ノ文例ニ準ス可シ

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ五四七、五四四、執細五二、五三

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本四九九、五〇一—五〇三、四六七、以下五一〇、五四五—五四九、五二二

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本 五〇〇、五二二、五三三ノ二、五四四ノ一、五四七ノ二、五四九ノ二

第三 執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書五〇五ノ二、五一三ノ二、供託法二、供保三四、舊商九八七

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書執細五四ノ二

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ五〇〇、五二二、五四七ノ二

第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ五六六、五九八ノ三、六〇三、六二五ノ二、六四四、七〇六ノ一、七一七ノ一、七三〇、七三一債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ五六六ノ三、五九一ノ一、五九八ノ二、六一三ノ二、六二九、七三二ノ三、四六、四七

特別代理人選任ノ申立

府縣市町村番地族業  
債權者 氏 名  
府縣市町村番地族業

亡債務者 氏 名  
相續人 氏 名

右當事者間ノ年何第何號事件ニ付キ強制執行着手中債務者氏名死去シ其相續人所在不明ナルヲ以テ執行行爲中債務者ニ通知ヲ要スルコト有之モ之ヲ爲スコト能ハス執行上差支候間相續人ノ所在判明致シ候マテ特別代理人御選任相成度申請仕候也

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿

債權者 氏 名

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス  
五五二、民九六四

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ五七八、五四、民費一六、民印一〇  
強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟

實例民事訴訟法 強制執行 總則

ス可シ五二〇

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ五三六ノ二、五五六、五五七

第五百五十六條

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍專用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス<sup>一、一三九、二九三、五三〇、五六六</sup>

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ<sup>七三〇、執細八〇</sup>

兵營内ニ於ケル強制執行囑託申請

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號事件ニ付キ強制執行ニ着手シタルニ債務者ハ日下何師團何聯隊何大中隊ニ在營中ニ

テ執行爲シ能ハサルヲ以テ全人ノ所在隊内ニ於テ其所有有体動産ヲ差押ヘ度候間其法屬隊長ニ囑託ノ上執行相成候様致シ度申請仕候也

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

強制執行囑託書

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

何師團何聯隊何大中隊在營現役軍人

債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號何事件ニ付キ債務者ハ年月日現役トシテ右肩書ノ隊へ入營シタルヲ以テ全人ニ對シ強制執行ヲ爲シ能ハサルニ因リ全人ノ所有ニ屬スル有体動産ヲ御差押ヘノ上御迴送相成度民事訴訟法第五百五拾六條ニ因リ及囑託候也

年月日

何區裁判所

判事 氏 名

實例民事訴訟法 強制執行 總則

何師團何聯隊長 氏 名殿

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ  
外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ一五三

本條ノ囑託申立及囑託書ハ第五百五拾六條ノ文例ニ準ス

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得五〇〇ノ三、五一、五二、五四三ノ三、五四七ノ三、五四九ノ四、七三三、七三五、七四八、七五六、四六〇、四五七

第五百五拾八條

抗告及決定ノ文例ハ第四百五拾七條ノ文例ニ準ス

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得五六〇

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判四五五、八三、八五、二九四、三〇二、五二八

第二 執行命令三九三、五六一

第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解二二二、二二九、民六九五、六七六

第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解二八一

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル五八二、四八四、五六二

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生ヌルトキハ此限ニ在ラス五六一

第五百六十一條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル

實例民事訴訟法 強制執行 總則

場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス三九三、五四五、三九四

請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限り之ヲ許ス  
執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シ  
タリト認メタル承繼ヲ争フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ  
區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

執行文付與ノ異議申立ノ文例ハ第五百二拾二條ノ文例ニ及決定ノ文例モ之ニ準ス、同請求ニ關スル異議ノ主  
張ノ訴、執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ争フ訴、(五一八ノ二、五一九、五二一)ノ文例ハ第五百  
四拾一條ノ文例ニ準ス、其判決ノ文例ハ第二百三拾六條ノ文例ニ準ス

第五百六十二條 公證人ノ作りタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人  
之ヲ付與ス五五九

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職  
務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス五一八ノ二、五一九、五二一、五  
四六、五四五、五二二、五二二

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス  
執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シ  
タリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ争フ訴  
ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十  
七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス五一八ノ二、五一九、  
五二一、五四五、五四

執行文付與ノ異議申立ノ文例及決定ノ文例ハ五二二ノ文例ニ準ス、請求ノ異議ノ訴、其他ノ訴ノ文例ハ五四五  
ノ文例ニ準ス其判決ノ文例ハ第二百三拾六條ノ文例ニ準ス

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス五一四ノ二、五二二ノ一、五四三ノ二、  
五四四ノ一、五四五ノ一、五四九ノ三、  
五六一ノ三、五六二ノ二、四、五九五、六三五、六四一ノ一、七一八、七三九、七五〇ノ二、七五七

## 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

### 第一節 動産ニ對スル強制執行

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス五六六、五九四

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス四九七、五一六、五五九、五六〇、八五、五四四、執細五七ノ四

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス五五四、執細五八ノ二

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ五六七、六三四

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス二二〇、五四九

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス五四〇、執細六五、六八

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限り其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス五四九、五六五、五四四、執細六七

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス民八八、八九、九八六

蓋ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ

得ス五八四、細細七七

第五百六十九條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

五六六、六九四

第五百七十條 左ニ掲クルモノハ之ヲ差押フルコトヲ得ス六一八

第一 衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル民八七

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農業物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

フルコトヲ得華、世、財二、一四

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコシ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ五六八、五八七―五八九

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却スコシ 五六四、五八〇、五八一、五八五

第五百七十三條 競賣スコキ物ノ中ニ高價ノモノアルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ五八〇、五六四ノ二、執細六九、五七―四、執手一三

第五百七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡スコシ執細六一  
執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ

立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス  
五〇〇ノ一、五二二、五二二ノ二、五四四ノ一、五四七ノ二、五四九、四

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス五四四、五八八、執細、七一ノ三、四

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス五八五  
競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣スコキ物ヲ表示スコシ 五四四、五七二、執細、七七ノ五

第五百七十七條 最高價競賣ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競買條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競買期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競買ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス 五四〇、執細七二、七三

第五百七十八條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ五六四、執細七二

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス五七四、五九三

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得五七三、執細七二ノ七、七四

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競買ス可シ五七五、明治二三、法六〇號

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得商一五〇

有價證券記名書替陳述ノ權付與ノ申請

債權者氏名ヨリ債務者氏名ニ係ル年何第何號何々事件ニ付キ債務者記名ノ何株券ヲ競買ニ付シタルニ競買人氏名ニ競落シタルヲ以テ其氏名ニ株券ヲ書替候間書替ニ付テノ必用ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ付與相成度申請仕候也

年月日

執達吏

氏

名

實例民事訴訟法

強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

何區裁判所判事 氏 名 殿

決 定

申請人 執達吏 氏 名

申請人ハ債權者氏名債務者氏名間ノ何々事件ニ付キ競賣ニ付シタル株券ノ記名ヲ競買人氏名ニ書替ルニ付キ債務者ニ代リ其必用ナル陳述ヲ爲ス權利ヲ付與スヘキ旨ノ申立ヲナシタリ當裁判所ハ其申請ヲ至當ト認メ決定スル如左

債務者氏名ノ株券ヲ買受人氏名ニ書替ルニ付キ必用ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏氏名ニ付與ス

年 月 日

何區裁判所 判 事 氏 名

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

本條ノ權利付與ノ申請及決定ノ文例ハ共ニ前條ノ文例ニ準ス

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ五六八ノ一、五四四差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス五六八ノ一 執細七七

第五百八十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラヌ他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得五七五、五八七、五八九、五九〇、五九二、五七四ノ一、五七五、五七七、五八〇、五八一、五八四

競賣場所御命令ノ申請(其競賣ノ方法執達吏外ノ者ニ競賣セシムル申請ハ之ニ準ス)

年何第何號何々事件ニ付キ執達吏氏名ニ於テ債務者所有ノ何々物件ノ差押ヲナシ年月日其場所ニテ競賣ニ付スルコトニ相定メ候得共該物件タル何市町村ニ於テ競賣ニ付スル時ハ競賣人モ數多有之從テ高價ニ競賣ニ付シ得ラル可ク候間差押物件ヲ何市町村ノ何ノ所ニ於テ賣却スト御命令相成度關係者合意ノ上申請仕候也

年 月 日

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

差押債権者	氏	名
執行力アル正本	氏	名
ニ因ル債権者	氏	名
債務者	氏	名

何區裁判所判事 氏 名殿

(注意、合意セサルトキハ一人ニテモ申請ヲナスコトヲ得ヘシ)

決定

差押債権者	氏	名
執行力アル正本	氏	名
ニ因ル債権者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者間ノ年(何)第何號何々事件ニ付キ差押物競賣ノ場所ヲ差押物以外ノ場所ニ於テ賣却セントノ申立ヲナシ當裁判所ハ其申請ヲ至當ト認メ決定スル如左

市町村ノ何々ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ命ス

年月日 何區裁判所 判事 氏 名

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債権者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ五六四ノ二 執細七八

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債権者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス七三七、以下五八九、六三〇ノ三、五九三、執細八一

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス五五〇、五五一

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債権者及

ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得五七五、五四四、執細七一

競賣催告書

年何第何號何々事件ニ付キ差押日ヨリ法定ノ期間ヲ經過致シ候間本日ヨリ何ヶ月間ニ差押物件競賣相成度此段及催告候也

年月日

差押債權者(執行力アル正本ニ因ル債權者) 氏 名

執達吏 氏 名殿

差押物競賣ニ付テノ處分命令申請

年何第何號何々事件ニ付キ年月日執達吏氏名ニ於テ債務者氏名ノ別紙目錄ノ有体動産ニ差押ヘタルニ當日ヨリ七日ヲ經過スルモ今執達吏ハ其差押物件ヲ競賣ニ付セサルニ因リ月日マテニ競賣ニ付スヘキ旨併告シタルニ其期日ヲ經過スルモ尙競賣セサルヲ以テテ相當ノ御處分相成度申請仕候也

年月日

差押債權者(又執行力アル正本ニ因ル債權者) 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

決定

執達吏 氏 名

年何第何號何々事件ニ付キ執達吏氏名ハ法定ノ期間ヲ經過スルモ競賣ニ付セサルヲ以テ該差押物件ヲ速ニ處分シ度キ旨何債權者氏名ヨリ申立ヲナシ當裁判所ハ其申立ヲ至當ト認メ決定スル如左  
執達吏氏名ハ年何第何號ノ別紙目錄ノ差押物件ヲ年月日マテニ競賣スヘシ

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得 五八六、五九〇、五九一、五一六、五一七、五五九ノ三一五、六二一

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ六二〇、六二六、五九三、一四三、五一七、民印一〇

配當要求書(執達吏ニ出スモノトス)

年月日貸付年月  
日返済ノ約元金

一金何圓  
一金何圓

利子

右配當要求候也

年月日

府縣市町村番地

債權者 氏 名

假住居届

府縣市町村番地

債權者 氏 名

右ノ處ヲ假住所ニ選定仕候間此段及御届候也

年月日

府縣市町村番地

債權者 氏 名  
右 氏 名

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當

要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ五八六ノ二、五九〇、六二〇

通知書

年何第何號何々事件ニ付キ年月日債權者(執行力アル正本ニ因リ又ハ其ナキ債權者)氏名ヨリ債權額金何圓ノ配當要求之レアルヲ以テ此旨通知ス

年月日

執達吏 氏 名

債權者ハ債務者 氏 名殿

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債權否認ノ申立(認ムル申立モ之ニ準ス)

年月日通知之有候執行力アル正本ニ因ラサル債權者氏名ヨリ年何第何號何々ノ事件ニ付キ配當要求有之候モ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



右債權ハ否認致シ候間此段申立候也

年月日

債務者 氏 名

執達吏 氏 名殿

通知書

年何第何號何々事件ニ付キ配當要求ノ申立有之モ其債權ハ債務者氏名ニ於テ否認致シ候間其旨及通知候也

年月日

執達吏 氏 名

債權者 氏 名殿

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定スヘシ(六三〇ノ三)

債權確認ノ訴

府縣市町村番地族業  
原告人 氏 名

府縣市町村番地族業  
被告人 氏 名

請求ノ目的

原被兩造間ノ何々債權ノ成立ノ確認ヲ要ムルニ在リ

請求ノ原因

原告人ハ年月日被告人ト何々ノ契約ナシ其結果原告ハ被告ニ金何圓ノ債權アルヲ以テ年月日被告人ト訴外人氏名トノ年何第何號強制執行事件ニ付キ配當ノ要求ヲナシタルニ被告人ハ何故カ原告人ノ債權ヲ否認シ其旨執達吏ヘ申立タルニ因リ及本訴次第ナリ

立 證

何々ヲ以テ立證ス

一定ノ申立

被告人ニ於テ何々ノ債權ヲ確認スヘシト御判決相成度候也

附屬書類

一何々

年月日

原告人 氏 名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

何裁判所判事 氏 名殿

右訴ニ付テノ答辯書ノ文例ハ第九拾九條ノ文例ニ判決ノ文例ハ第二百三拾六條ノ文例ニ準ス可シ

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得五七四、六二六

五八七、五九〇、五八〇、五八一、五八五

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合

ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ 五八〇、五八一、五八五

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムル

ニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ六二六

事情届

債權者 氏 名

一金何圓

供託金

債權者 氏 名

年何第何號強制執行事件ニ付キ年月日債務者氏名ノ差押ヘ物件ヲ競賣ニ付シ其賣得金ヲ各債權者ニ分配セン  
トシタルニ其配當ニ付キ各債權者間ニ協議調ハサルヲ以テ別紙執行記録相添ヘ事情届仕候也

年月日

執達吏 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第三債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他

ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判

所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス 一四、六一四、六一七、八七、五八一、五九六、五四三、三、五九七、五五八

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ

此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判

所管轄權ヲ有ス一〇一、一四、五六三

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押ヲ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス  
可シ五九四、六〇九、六〇〇、五九九ノ二

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得一三五

債權差押へ申請(其他ノ申請ハ之ニ準ス)

- 府縣市町村番地族業 債權者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 債權者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 債權者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 第三債務者 氏 名

請求金額

一金何圓

貨 金

一金何圓

差押フヘキ金額

一金何圓

債務者ヨリ第三債務者ニ貸付金

請求ノ原因

- 一 右請求金ハ債權者ヨリ債務者へ貸與シ年月日何裁判所ニテ判決ヲ受ケ其判決確定ニ付キ年月日全裁判所ヨリ執行又チ得テ執行スヘキ請求金額ナリ
- 一 差押フヘキ金何圓ハ債務者ヨリ第三債務者へノ貸付金ニテ第三債務ヨリ債務者へ支拂ヘキ金額ナリ
- 一 債權者ハ右ノ執行正本ニ因リ債務者ニ對シ執行シタルニ債務者ニハ一ノ差押フ可キ所有財産無ク只右ノ第三債務者ニ對スル貸金ノミニ付キ其金額ノ差押ヘテ要ムル次第ナリ

請求ノ趣旨

右ノ次第ナルヲ以テ前記ノ請求金額及執行費用辨償ノ爲メ第三債務者ヨリ債務者へ支拂フヘキ金額ノ差押命令御發相成度候也

附屬書類

一何々

年 月 日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

(注意、申請却下ニ付テハ即時抗告(四五八)ヲ爲スコトヲ得其文例ハ四五七ノ文例ニ準スヘシ)

第五百九十七條 差押命令へ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ五九六、五四三ノ二

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ一三六、五五八、六二〇

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

債權差押命令

府縣市町村番地族業	
債權者	氏 名
府縣市町村番地族業	
債務者	氏 名
府縣市町村番地族業	
第三債權者	氏 名

請求金額

一金何圓

右金額ハ年月日何裁判所書記ノ付與シタル執行力アル判決正本ニ因リ(又ハ公證人氏名ノ付與シタル公正證書正本ニ因リ)債務者辨濟スヘキモノトス

前記請求金額並ニ此申請ノ費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル貸金何圓ノ債權ハ之ヲ差押フルモノトス

第三債務者ハ差押ヘニ係ル債權金額ヲ債務者ニ支拂フ可カラス又債務者ハ右ノ債權ニ付キ取立等一切ノ處分ヲ爲ス可カラス

年月日

何區裁判所 判事 氏名

(注意、此命令ニハ即時抗告ヲ(五五八)爲スコトヲ得其文例ハ四五七ノ文例ニ因ル)

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セス

シテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ民三六九、以下、不動登一三五

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得五九六

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

債權差押登記記入申請

本條ノ抵當ニ付キ債權差押ノ申請ノ文例ハ第五百九十六條ノ文例ニ其命令ハ第五百九十八條ノ文例ニ準ス但抵當物ノ所在物件ヲ表示ス可シ此申請ハ債權差押申請ト全時ニ爲ス

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

府縣市町村番地族業

第三債務者 氏 名

抵當不動産別紙目錄ノ通り

債務者ヨリ第三債務者ニ對スル抵當權ニ付キ金何圓ノ債權ヲ債權者ヨリ債務者ニ係ル強制執行ノ爲メ差押度キ旨申請仕候間差押命令ト全時ニ別紙目錄ノ抵當不動産ニ債權差押ノ旨登記相成度申請仕候也

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

登記囑託

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

府縣市町村番地族業

第三債務者 氏 名

右當事者間ノ當廳年(何第何號)債權差押事件ニ付キ年月日別紙目錄ノ不動産ニ對シ債權差押ノ命令相發シ候條其旨登記相成度及囑託候也

年月日

何區裁判所

判事 氏 名

何區裁判所(又ハ出張所)御中

一登録税標準

金何圓

一登録税

金何圓

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セ  
 スシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ  
 命令アラシコトヲ申請スルコトヲ得<sup>五九八、一五九六、六〇三、六一〇、五九六、六二〇、六一一、六一</sup>  
<sup>二、六〇一、五五八、非七二、七七、民四二三、四六六、以下</sup>  
 右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

債權(取立(轉付)ノ命令申請

府縣市町村番地族業  
 債權者 氏 名  
 府縣市町村番地族業  
 債務者 氏 名  
 府縣市町村番地族業  
 第三債務者 氏 名

請求金額

貸 金

一金何圓也  
 一金何圓也

債務者ヨリ第三債務者ヘノ貸金

右債權者ヨリ債務者ニ係ル請求金額何圓ノ強制執行ノ爲メ年月日第三債務者ニ對シ差押ヘタル金何圓ノ債權  
 ハ(券面額ニテ債權者ニ(轉付)又ハ(債權者ニ於テ其請求金額ニ充ルマテ取立度候間取立)ノ御命令相成度申  
 請仕候也

年 月 日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存  
 スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタ  
 ルモノト看做ス<sup>五九八、六〇九、五三五、六〇〇</sup>

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者  
 ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過  
 スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限り他ノ債權者ハ  
 配當要求ヲ爲スコトヲ得ス<sup>六〇〇</sup>

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ二四五ノ三

債權(取立)(轉付)命令

府縣市町村番地族業	債權者	氏	名
府縣市町村番地族業	債務者	氏	名
府縣市町村番地族業	第三債務者	氏	名

年月日差押命令ニ依リテ差押ヘタル前記債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル何々ノ債權ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ債權者ニ轉付ス(債權者ニ於テ之ヲ取立ツ可シ)

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達

吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス 五六六ノ一、三、六〇〇一六〇二、六〇七一六一五 六一七、六一九一六二二、四四、三五七、六二〇

本條ニ因リ差押ヘタル債權ノ取立轉付命令ノ文例ハ第六百一條第六百二條ノ各文例ニ準ス換價ノ文例ハ第六

百十三條ノ文例ニ準ス

第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ収

入ス可キ金額ニ及フモノトス六一八、五號

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモ

ノトス六一八

第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者

ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

七三〇

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメ

テ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノ

ミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス五

〇五、五七四、五七九、五九六、五九八、六〇二

本條ノ差押申請及其命令ノ文例ハ第五百九十六條、第五百九十八條ノ文例ニ準シ又全取立ノ文例ハ第六百二條ノ文例ニ準ス

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ六〇〇ノ一、

債權取立届

- 府縣市町村番地族業 債權者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 債務者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 第三債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號何々事件ニ付キ差押ヘタル金額ヲ取立命令ニ因リ年月日第三債務者ヨリ悉皆取立候間此旨及御届候也

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿

債務者 氏 名

第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得五九六、一六五

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第三債務者ヨリ陳述ヲナサシムル申請(此申請ハ債權差押(五九八)申請ト全時ニ申請スルモノトス)

- 府縣市町村番地族業 債權者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 債務者 氏 名
- 府縣市町村番地族業

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



第三債務者 氏 名

右當事者間ノ債權差押ヘ事件ニ付キ差押ヘ御命令ト同時ニ第三債務者ニ民事訴訟法第六百九條第一項第一號乃至第三號ノ陳述ヲ爲スヘキ旨催告相成度申請仕候也

年月日

申請人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

(注意、右催告ハ民事五九八ノ差押命令ト同時ニナスヘキモノニテ其取扱ハ書記ナシテ差押命令送達ノ際其證書ニ民事六一九ノ一ノ一號乃至三號事項ヲ記載シ催告セシメ又裁判所ヨリ執達吏ニ右命令送達ノ時右事項ヲ證書ニ記載シ送達スヘキ旨ヲ命シテ前同一ノ催告ヲセシムモ可ナリ)

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ

一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ六〇〇ノ一、六〇二、五九、六一、五五、六二三

取立命令執行ノ訴(轉付命令ニ付テノ訴モ之ニ準ス)

府縣市町村番地族業  
原告人 氏 名  
府縣市町村番地族業  
被告人 氏 名

請求ノ目的

訴外人氏名ヨリ被告人ニ對スル金何圓ノ債權ヲ原告人ニ何裁判所ノ取立命令ニ因リ取立シムルヲ目的トス

請求ノ原因

原告人ハ訴外人氏名ニ金何圓ノ債權ヲ有シ其強制執行ノ爲メ訴外人氏名ヨリ被告人ニ對スル金何圓ノ債權ヲ被告人ヲ第三債務者トシテ差押ヘ年月日何裁判所ノ取立命令ヲ以テ被告人ヨリ取立ントシタルニ被告人ハ其債權ヲ認メスシテ双立ニ應セサルヲ以テ本訴ニ及ヒタル次第ナリ

立證方法

何々ヲ以テ立證ス

一定ノ申立

被告人ハ已ニ差押ヘラレタル訴外人氏名ニ對スル金何圓ノ債權ヲ原告請求ノ如ク何裁判所ノ取立命令ニ應シ之ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告人ニ於テ負擔スト御判決相成度候也

年月日

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

原告人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

附屬書類

一何々

(注意、本訴ノ答辨書ハ第九拾九條ノ判決ハ第二百三十六條ノ各文例ニ準ス可シ)

取立命令訴ノ告知

原告人氏名(債權者)被告入氏名(第三債務者)ニ對シ年月日何裁判所ノ取立命令ノ旨趣ニ基キ訴テ年月日何裁判所へ提起シタルルヲ以テ其旨告知候也

年月日

原告人(債權者) 氏 名

(注意、告知ハ執達吏ニ委任シテ爲スヘシ)

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者

ニ生シタル損害ノ責ニ任ス五四五

第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但

此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ一〇八、七二

取立權拋棄届

- 住所族業 債權者 氏 名
- 住所族業 債務者 氏 名
- 住所族業 第三債務者 氏 名

右當事者間ノ何々事件ニ付キ年月日何裁判所ヨリ取立ノ命令ニテ第三債務者ヨリ金何圓ノ債權ノ取立ノ權利ヲ得タルニ債權者ノ都合ニ因リ更ニ轉付命令ヲ得度クニ付キ右取立ノ權利ヲ拋棄仕候間及御届候也

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

附屬書類

實例民事訴訟法 強制執行 金額ノ債權ニ付テノ強制執行

一 届書牒本何通(牒本ハ第三債務者及債務者ヘ)  
(送達ノ爲メ提出スヘキモノ)  
一何々

第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繋リ若ク  
ハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價  
方法ヲ命スルコトヲ得五七二

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ五  
五八

換價ノ申請

住所族業	債權者	氏	名
住所族業	債務者	氏	名
住所族業	第三債務者	氏	名

右當事者間ノ年何第何事件ニ付キ年月日何々ノ債權ヲ差押ヘタルニ何々ニテ取立困難ナルヲ以テ執達吏氏名  
ヘ取立ニ換ヘ他ノ換價ノ方法ヲ御命令相成度申請仕候也

附屬書類

一何々

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿

債權者 氏 名

決定

住所族業	債權者	氏	名
住所族業	債務者	氏	名
住所族業	第三債務者	氏	名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

右當事者間ノ年何第何號何事件ニ付キ債權者ハ第三債務者ニ差押ヘタル債權ノ何々ニテ取立ニ困難ナルヲ以テ換價ノ命令ヲ得度旨申立ナセリ當裁判所ハ其申立ヲ至當ト認メ決定スル如左  
本按何々ノ債權ヲ執達吏氏名ニ於テ競賣ノ方法ニテ換價スヘキコトヲ命ス

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

(注意、此決定(認可、却下)ニ對スル抗告ハ第四五七條ノ文例ニ準スヘシ)

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス五九四―五九七

第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ五三四、五九七、五九八ノ一、五九六、七三〇、六二三

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス六二〇

有體動産引渡命令申請(此申請ハ差押ヘト全時ニ提出スルモ可ナリ)

府縣市町村番地族業

債權者

氏

名

府縣市町村番地族業

債務者

氏

名

府縣市町村番地族業

第三債務者

氏

名

右當事者間ノ年何第何號何々事件ニ付キ年月日差押ヘタル第三債務者占有ノ何々動産ヲ執達吏氏名ニ引渡ス可キ旨御命令相成度申請仕候也

年月日

何區裁判所判事

氏

名殿

申請人(債權者)

氏

名

決

定(差押ト全時ナレハ差押ノ命令ト全時ニ此命令ヲ發スルモノトス)

住所族業

債權者

氏

名

住所族業

債務者

氏

名

住所族業

實例民事訴訟法

強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第三債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號何々事件ニ付キ債權者ハ其差押ニ係ル何々動産ヲ執達吏ニ引渡スヘキノ命令ヲ要メ  
タリ當裁判所ハ其請求ヲ至當ト認メ決定スル如左

本按第三債務者ノ占有ニ係ル何々動産ヲ執達吏氏名ニ引渡スコトヲ命ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

(注意、第三債務者ニ於テ此命令ニ從ハサル時ハ取立命令ノ申請ヲ爲ス可シ其申請及決定ノ文例ハ第六〇  
〇條第六〇二條ノ文例ニ準ス而シテ第三債務者ノ取立ニ應セサル時ハ差押債權者ハ第三債務者ニ對シ  
テ提起ス可シ其訴及、答、辯書判決ノ文例ハ第六一〇條ニ因ル其判決ノ執行ハ第七三〇條ニ因リテ之  
爲ス  
第二項ノ換價ノ申請及決定ノ文例ハ第六一三條ノ各文例ニ準ス)

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所  
在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ六二二、五四四、六二三  
引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒ

テ之ヲ爲ス六四四

保管人選定ノ申請

府縣市町村番地族業 債權者 氏 名  
府縣市町村番地族業 債務者 氏 名  
府縣市町村番地族業 第三債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號不動産差押事件ニ付キ第三債務者ノ手ニ差押ハタル何々不動産ノ引渡ヲ要メ度候間  
住所氏名ヲ別紙目錄ノ不動産ノ保管人ニ御選定相成度申請仕候也

附屬書類

一何々

年月月

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

決定

住所 氏名

右者年何第何號何事件ニ付キ別紙目錄不動産ノ保管人ヲ命ス

年月日

何區裁判所 判事 氏名

(注意、本條ノ不動産引渡ノ申請及決定ハ第六一五條ノ文例ニ準ス而シテ保管人選定ノ申請ハ其引渡ノ申請ト同時ニナス可シ又前條ノ注意事項ハ本條ニモ尙準用ス)

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲ス

コトヲ得ヌ五九四、六〇〇、六〇一

第六百十八條 左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 第一 法律上ノ養料五〇、五號、民九五四以下
- 第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務

者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料二三、法四五號、軍人恩給法廿四、法四號、死歿軍人屬遺族扶助ノ規定

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入一、一五四、五三〇

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料明治一五年七月、太政官達第四一號、二三、六月法第四二號、全第四四號、全年十二月勅第二四八號、二五年二月文部省令一號、二九年三月、法第三六號

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス五九三

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賈得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラヌシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス五八九、六〇八、六〇三、六一五、六一六、五九〇、五九一ノ二、三

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者 債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス五八七

配當要求(數通ナ)

一金何圓

何々債權

右ハ年何第何號何事件ニ付キ差押債權者氏名ハ第三債務者氏名ノ何々ヲ差押ヘタルニ因リ其債權額ノ配當ヲ

受度ヲ要求致候也

年月日

執行力正本 債權者 氏

名

何區裁判所御中

(注意、書記ハ右配當要求書ヲ送達證書ニ付シ第三債務者、債務者、差押債權者へ送達スヘシ)

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ

供託スル權利アリ五二三、五九三、六二六

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

供託書

一金何圓

供託金

右ハ何裁判所年何第何號何事件ニ付キ配當要求者氏名ノ請求ニ因リ供託仕候也

年月日

第三債務者 氏

名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

事情届

年(何)第何號何事件ニ付キ債権者氏名ヨリ債務者氏名ニ係ル強制執行ノ爲メ自分ヲ第三債務者トシテ其所有金  
圓ヲ差押ヘタルニ氏名ハ配當要求者トシテ配當ノ申出チナシタル旨貴廳ヨリ通達アリ且ツ配當要求者氏名ヨ  
リ其金圓ヲ供託スヘキ旨ノ要求アリタルヲ以テ別紙供託書ノ如ク年月日供託仕候間事情及御届候也

年月日

第三債務者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判  
所カ差押債権者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達  
セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債権者ノ求ニ因リ之ヲ  
引渡ス義務アリ六一六

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債権者

ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得六一〇ノ一、六一二、六一五ノ一、  
六一六ノ一、六一〇、五九四

執行力アル正本ヲ有スル各債権者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ四八、  
五〇〇

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債権者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラン  
コトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債権者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

本條ノ訴狀、答辯書、判決ノ各文例、第六一〇條ノ各文例ニ準ス尙ホ第六一五條、第六一六條ノ文例ノ注意  
事項ヲ準用ス

第六百二十四條 差押債権者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シ  
タル各債権者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルト  
キハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得六一三、五九四、六〇二

債権取立ノ催告

何區裁判所年(何)第何號何事件ニ付キ債権者氏名ニ於テ年月日第三債務者氏名ヘ差押ヘタル何債権ノ取立チ何  
裁判所ノ命令ノ如ク年月日ヲ限リ速ニ取立ツヘシ若シ此催告ニ應セサル時ハ自カラ取立ルコトヲ執行裁判所

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債権ニ付テノ強制執行



（請求ス可シ右及催告候也）

年月日

差押債権者氏名殿

執行力正本ニ  
因ル債権者 氏

名

三八四

債権取立ノ申請

府縣市町村番地族業

申請人（判決正本ニ  
因ル債権者） 氏

名

府縣市町村番地族業

被申請人（差押債  
権者） 氏

名

年何第何號何事件ニ付キ被申請人ハ債務者氏名ノ第三債務者ニ對スル債権ヲ年月日差押ヘ年月日ニ其債権取  
立命令ヲ受ケナカラ今ニ取立ヲサス爲メニ申請人ノ執行行爲ノ妨ケトナルヲ以テ年月日マテニ取立ヲ爲ス  
ヘキ旨催告ニ及ヒタルニ被申請人ハ其催告ニ應セサルヲ以テ申請人ニ於テ被申請人ニ代リ自カラ右債権ヲ取  
立度ク候間御許可相成度申請仕候也

附屬書類

一何々

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿

執行力アル  
正本債権者 氏

名

（注意、右申請ヲナシ右ノ許可ニ得タル債権者ハ第六二三條ノ訴ヲ起スコトヲ得其文例ハ全條ノ例ニ準  
ス）

決定

府縣市町村番地族業

申請人 氏

名

府縣市町村番地族業

被申請人 氏

名

申請人ハ被申請人方第三債務者氏名ニ對シ年月日差押ヘタル債権ヲ取立命令ノ如ク取立サルヲ以テ年月日マ  
テニ取立ツヘキ旨被申請人ニ催告シタルニ其催告ニ應セサルニ因リ自カラ取立テ度キ旨ノ申請ヲナセリ當裁  
判所ハ其請求ヲ至當ト認メ決定スル如左

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債権ニ付テノ強制執行

三八五

當廳年(何)第何號何事ニ付キ第三債務者ニ差押ヘタル何々ノ債權ヲ申請人ニ於テ被申請人ニ代リ取立ルコトヲ許可ス

年月日 何區裁判所 判事 氏 名

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制

執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス五九七―六二三、五六六―五九三

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

財産權差押申請

府縣市町村番地族業 申請人(債權者) 氏 名 府縣市町村番地族業

被申請人(債務者) 氏 名

請求金額

一金何圓

何々

差押フヘキ物件

一何々(續業權)(電話加入權、已設權第何番)

申請ノ旨趣

債權者ハ債務者ニ對シ何裁判所ノ執行力アル判決正本(公證人ノ作ル正本)ニ依リ強制執行ヲナサントスルニ債務者ハ他ニ所有財産之レナク只僅カニ右表示ノ財産有之ノミニ付キ其財産ヲ差押ヘ辨濟ヲ受ケ度ク候間右財産權御差押ヘ相成度申請仕候也

附屬書類

一何々(執行力アル正本)

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

財産権差押へ命令

住所族業  
債権者 氏 名  
住所族業  
債務者 氏 名

請求金

何々

一金何圓

右金額ハ年月日何裁判所書記ノ付與シタル執行力アル正本(公證人ノ公正證書正本)ニ因リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス

前記請求金及此請求ノ費用ノ辨濟ニ充當スル爲メ債務者ノ所有ニ係ル(電話加入權番號、電話何番(續業權)ハ之ヲ差押フルモノトス

債務者ハ差押ヘニ係ル財産權ハ(何々)ニ付キ一切ノ處分ヲ爲スヘカラス

年月日

何區裁判所 判 事 氏 名

換價命令申請

府縣市町村番地族業  
債権者 氏 名  
府縣市町村番地族業  
債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號財産權差押へ命令ニ因リ年月日差押ヘタル(何々)財産權ハ之ヲ換價シ辨濟ヲ受度候間換價ノ御命令相成度申請仕候也

年月日

債権者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

決定

住所族業  
債権者 氏 名  
住所族業  
債務者 氏 名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

右當事者間ノ年何第何號財産差押へ件ニ付キ年月日差押へタル(何々)財産權ハ競賣ノ方法ニ因リ何區裁判所  
執達吏氏名ニ於テ換價スヘキコトヲ命ス

年月日

何區裁判所 判事氏名

(注意、財産權ハ株主權、財團ノ持分權、版權、專特許權、鑛業採掘權、漁業權ノ如キ之ナリ)

#### 第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日  
ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス  
五九三、五八六、五九三ノ二、六一九、五八七、六〇二、六三〇、六二二、六二〇

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶  
ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ一七〇ノ二、六二八、五  
九三ノ三、六二二ノ三

事情届(差押調書ヨリ配當ニ總  
テノ書類ヲ添フ可シ)

賣得金

一金何圓

費用

金何圓

差引

金何圓

供託金

右ハ債權者氏名ニ對スル強制執行ノ賣得金ニシテ左ノ數名ハ其債權者ナリ

- 差押債權者 氏 名
- 仮差押債權者 氏 名
- 民法ニ因ル要求者 氏 名

右債權者間ニ配當協議調ハス仍テ賣得金ハ之ヲ供託シタリ

右一件記録相添へ事情届仕候也

年月日

執達吏 氏

何區裁判所判事 氏 名殿

名

#### 催告書

債務者氏名ノ有体動産ニ對スル強制執行ノ(差押金)配當候條月日マテニ請求金額ニ關スル計算書ヲ差出ス可  
賣得金

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

年月日

氏名殿

何區裁判所

書記

氏

名

計算書

一金何圓

貸付元金

一金何圓

利子

又ハ

一金何圓

雇人給料、日用品代

右配當要求(又ハ優先權ヲ以テ第一ニ配當要求)仕候也

年月日

(差押、仮執行、仮差押)  
民法ニ因ル要求者

債權者

氏

名

何區裁判所御中

### 第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及

ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス 六二九ノ二、五九三ノ三、六二一ノ三、六三一、六二六、六三〇ノ三

配當表

一金何			供託金			
債權者	元金	利子	費用	其他費用	配當金	順位
氏名	、	、	、	、	、	、
氏名	、	、	、	、	、	、
氏名	、	、	、	、	、	、

備者債權者氏名ハ民法第何條ニ因ル優先權アリ之ヲ第一位トシテ配當シタルニ剩餘ナキヲ以テ他ノ債權者ニ配當スル能ハス(又ハ之ヲ配當シ殘額金何圓ヲ各債權者ニ平等ニ配當シタリ  
又第何位ノ債權ハ(停止條件付キ)(債務者ノ承諾セサルモノ)(異議アルモノ)(仮差押ニ係ルモノ)ニ付キ其配當額ハ該債權確定マテ供託シタリ(六三〇ノ二、三)

### 第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期

日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス  
配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書  
記課ニ之ヲ備置ク可シ六三〇ノ一

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ  
六二九、六三二

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之  
ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ民二二七

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議  
アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ五九一ノ三、五八六、五九三、七三三、五四五—五四九、六  
三一、六三三—六三五

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ二二九、一三〇、一三三、六三一

配當調書(六三一、六三二)

債權者氏名ニ對スル有体動産強制執行ニ付キ(差押金)ノ配當實施、年月日時何區裁判所ニ於テ判事氏名書記

氏名立會ノ上配當ヲ實施シタリ

一債權者、債務者出頭シタリ

一配當ハ異議ナク配當表ノ如ク配當シタリ

一債權者氏名ハ異議ノ申立ヲナシ債務者ハ之ニ同意シタルヲ以テ其部分ヲ更正シタリ(其他異議ノ申立ニ付

キ協議調ハサル如キ總テノ出来コトヲ調書ニ記ス可シ)

一債權者氏名ハ期日ニ出頭セス

右調書ハ關係人ニ讀ミ聞ケタリ

年月日

何區裁判所	判事氏名
書記氏名	

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係  
人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表  
ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ六三〇、六三一

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス  
若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキ  
ハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ  
債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ  
其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ六三二ノ一、五  
一、五九一、一六五、一七〇、搦二二九、六二八

異議ノ訴提起ノ證明書

債務者氏名ニ係ル強制執行ノ配當事件ニ付キ債務者氏名ノ債權ハ(優先權ナキモノ)(計算上ニ誤リアリ)(債  
務者ノ承諾アルモ虚偽)ナルヲ以テ其配當ニ關シ異議ノ申立テナシタルニ債權者氏名ハ其異議ヲ正當ト認サ  
ルヲ以テ年月日共同被告人トシテ管轄裁判所ヘ別紙證明書ノ如ク異議ノ訴ヲ提起シタルヲ以テ此段及證明候  
也

年月日

異議申立債權者 氏

名

何區裁判所判事 氏 名殿

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ  
從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲  
メ妨ケラルルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レト  
モ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方  
裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管  
轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ  
裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス 五九三、六二一、六二七、五一三、  
五四三、六三三、五六三

配當異議ノ訴

府縣市町村番地族業

原告人(共同原告アラハ列記スヘシ) 氏

名

府縣市町村番地族業

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

被告人(共同被告アラハ列記スヘシ) 氏 名

請求ノ原因

原告人ハ訴外人氏名(債務者氏名ノ強制)ノ配當ニ關シ被告人ハ其債權者ナリト稱シ(優先權ヲ主張)(虚偽ノ債權ノ主張)(誤謬アル)配當要求ヲナシタルヲ以テ其不當ナル理由ヲ主張シ異議ノ申立ヲナシタルニ被告人ハ其異議ヲ正當ト認メサルヲ以テ(共同被告人トシ)被告人ノ配當要求ハ不當ナリトシ異議ノ訴ヲ提起シタルヲ以テ被告人ノ(優先權ノ主張)(虚偽ノ主張)誤謬アル主張ヲ排斥シ相當ノ配當ヲ爲ス様判決ヲ要ムル次第ナリ

立證方法

一何々

一定ノ申立

右ノ次第ニ付キ被告人ノ何々ノ配當要求ハ正當ナラサルヲ以テ何々ト配當スト判決相成度候也

附屬書類

一何々

年月日

原告人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

(注意、答辨ハ第一九九條ノ文例ニ準スヘシ)

第六百二十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者

ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサル

トキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ六三五、六二九

判決

府縣市町村番地族業

原告人 氏 名

府縣市町村番地族業

被告人 氏 名

右當事者間ノ年何第何號配當異議ノ訴ニ付キ判決スル如左

主 文

配當表中債權者氏名ノ配當額ヲ(何々)ト更正ス(又ハ配當裁判所ノ配當表ハ之ヲ取消ス配當裁判所ハ新配當表ヲ調製ス可シ)(又ハ異議ノ訴ハ之ヲ却下ス)

事 實

原告人ハ何々(異議ノ申立ヲ揭示ス)

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



被告人ハ何々(答辯ヲ揭示ス)

理由

被告人ハ云々(原告人ハ云々)ト云フモ(何々ノ理由アルヲ以テ)(又ハ理由ナキヲ以テ)主文ノ如ク判決ス

年月日

何裁判所 判事 氏 名

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議

ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ二四七、二四八、二五九

本條欠席判決ハ第二四七條第二四八條ノ文例ニ準シ其故障ハ第二五五條ノ文例ニ準スヘシ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂

又ハ他ノ配當手續ヲ命ス四九七、四九九、六三六

本條ノ判決確定ノ證明書ハ第四九九條ノ文例ニ準スヘシ

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル

執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ五九三、六二二、  
供託法、全取扱規程

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サ  
シメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ  
金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ舊商一〇四七  
期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ一三〇、一三一

(判決正本)又ハ(債權證書)

(公正證書又ハ判決正本若クハ貸金證書ヘ左ノ文詞ヲ記スヘシ

右債權額ノ内へ

金何圓

配當額

右金額配當ス

年月日

何裁判所 書記 氏 名

實例民事訴訟法 強制執行 金額ノ債權ニ付テノ強制執行

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第二 強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リ裁判所之ヲ爲ス

第二款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス六四三、五二八、五一七、六四三、四九七、五五九、五六〇、六四一、六八九

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

不動産強制競賣申立書(共有物持分ノ競賣申立モ之ニ準ス)

府縣市町村番地族業	債權者	氏	名
府縣市町村番地族業	債務者	氏	名

請求金額

一金何圓

元 金

年月日貸付々年月日ヲ辨濟期日トシテ子ハ年何割

實例民事訴訟法 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行

一 何圓

利子

合計金何圓

競賣物件

府縣市町村番地

一 田、畑、山林、宅地、何坪反、畝、步

土藏、木造、何棟、何坪

瓦、板、葺

強制競賣ノ原因タル事實

右請求ノ金額ハ(何裁判所年月日言渡ヲ受タル判決、決定、命令、和解調書又ハ公證人ノ作リタル公正證書)ノ執行力アル正書ニ基キ債務者ノ辨濟ニ充ル爲メ前顯ノ不動産ニ對シ強制競賣ノ手續キ開始決定相成度候也

附屬書類

一 執行力アル正本

一 土地建物登記謄本

一 租税、公課ヲ證スヘキ證書

一 貸貸借ノアル時ハ其證スヘキ證書

一 債務者名義ノ送達證明書

一 競賣物件目録

年月日

債權者

氏

名

何區裁判所列事

氏

名殿

取調へ必用ノ時ハ第六百四拾三條三項ノ取調申請書ヲ添ユルコトヲ要ス

(注意、登記簿ニ登記シアラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證スル證書ヲ添付スルコトヲ要ス、債務者、債權者物件ノ表示ハ登記簿ノ表示ト符合スルコトヲ要ス)

申請ト同時ニ郵便切手及費用ノ豫納ヲナス可シ)

納書(之ハ別ニ認メ申立書ヘ添フモノトス)

一 郵便切手何程(費用、豫納金何圓)

右納付候也

債權者

氏

名

何區裁判所御中

決定

實例民事訴訟法 強制執行 金額ノ債權ニ付テノ強制執行

府縣市町村番地族業

申立人 氏 名

申立人ヨリ債務者氏名ニ係リ不動産強制競賣ノ申立ヲナシタルモ債務名義ノ違違ナキヲ以テ(其他何々)其手續キキ開始スルヲ得サルニ因リ本件申立ハ之ヲ却下ス

年月日

何區裁判所 判 事 氏 名

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ五一六、五一七

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證

書

第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ

登録シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ

證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ムヘキ一个年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借貸ヲ證ス可キ證書  
第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス七〇六、七〇七

(貸借)取調申請書  
(公課)

府縣市町村番地族業

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

債務者 氏 名

右債務者ニ對スル不動産強制競賣申立(土地、建物賃貸借)又(其納ムヘキ一ケ年ノ租公課)ノ證明書ヲ添付スヘキ處債權者ニ於テ證明スルコト能ハサルニ付キ民事訴訟法第六百四拾三條三項ニ因リ貴廳ニ於テ御調ヘ相成度申請仕候也

年月日

府縣市町村番地族業  
債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ六八六、六九四ノ二號、六五〇、二四五、六八九、六五七、六五四

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ好ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

一三七

不動産強制競賣手續開始決定

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

請求金額

一金何圓 元 金 年月ハ貸付ケ

一金何圓 利 子 年月日マテ

合計何圓也

右金額ハ年月日何裁判所ノ(判決)、(決定)、(命令)、(和解調書)(公證人氏名ノ公正證書)ノ執行力アル正本ニ基キ債務者ノ辨濟スヘキモノトス

當區裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ前記金額ノ辨濟ニ充メ爲メ債務者ノ所有タル別紙目錄ノ不動産ニ對シ強制競賣ノ手續ヲ開始シ債權者ノ爲メ之ヲ差押フルモノナリ

年月日

何區裁判所 判 事 氏 名

(右決定ノ外左ノ命令ヲ發ス)

一第六百四十三條三項ノ申立アル時ハ其取調ヘ命令(文例)ハ六四三ニアリ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

一第六百五拾一條ノ登記囑託(文例ハ六五二ニアリ)

一第六百五拾四條ノ催告(文例ハ六五四ニアリ)

一第六百五拾五條ノ評價(文例ハ六五五ニアリ)

(注意、共有物持分ノ強制競賣ノ申立アル時ハ其持分ニ付キ強制競賣ノアルコトヲ登記シ他ノ共有者ニ其旨ヲ通知スヘシ其文例ハ裁判所書記ヨリ共有者ニ宛テ債権者ヨリ強制競賣ノ申立アル旨ヲ通知スルノミニテ足レリ(六八九))

命令

何區裁判所 執達吏 氏 名

債務者氏名ノ所有ニ係ル別紙目録ノ不動産ニ付キ(貸貸借ノ有無及期限又ハ借賃)(納ムヘキ一年ノ地租、公課)取調ヘノ上年月日マテニ其取調書ニ差出スヘン

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス五三八

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手

續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス五八六、五八七、六四四、六四九

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス五八六、六三〇、六九七

申立ヲ却下スル時ノ決定ノ文例ハ

第六百四拾二條、六百四拾三條ノ却下ノ決定ノ文例ニ因ル

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコシ五九〇

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得六五八、七號、六七二、六七六、六八八

配當要求書

府縣市町村番地族業

差押債権者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

請求金額

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

一金何圓 元 金  
一金何圓 利 子

申立ノ趣旨

右金額ハ(何々)執行力アル正本(判決、公証書)ニ基キ又ハ執行文ナク(債務者氏名ニ於テ辨濟スヘキモノトス然ル處差押ヘ債權者ヨリ債務者ニ對シ其所有ノ不動産ノ強制競賣ノ申立ヲナシ手續ノ開始決定相成候ニ付テハ該不動産ノ賣得金ヲ以テ請求金額ノ辨ニ充當ノ爲メ配當相成度候也

年月日

府縣市町村番地族業  
債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

仮住所届

府縣市町村番地氏名方  
氏 名

年(何)第何號不動産強制競賣事件ニ付キ配當要求ヲナシタルニ因リ前記ノ處ヲ假住所ニ選定致シ家人ニ送達書

類ノ受取リ方委任仕候階及御届候也

年月日

配當要求者 氏 名  
氏 名

何區裁判所御中

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ六九一、六四八

不動産強制競賣申立通知書(六四八)

債權者 氏 名  
債務者 氏 名

右當事者間ノ不動産強制競賣事件ニ付キ其不動産ニ對シ住所氏名ハ左ノ債權ニ基キ更ニ強制競賣ノ申立ヲ爲シタルニ因リ民事訴訟法第六百四拾七條一項ニ從ヒ通知ス

一金何圓 年月日貸付ケ 元 金

一金何圓 年月日ヨリ 利 子

合計金何圓

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

年月日

何區裁判所

書記

氏

名

利害關係人 氏 名殿

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

配當要求通知

債權者氏名債務者氏名間ノ不動産強制競賣事件ニ付キ住所氏名ハ債務者ニ對シ金何圓ノ債權アリトシ配當要求ノ申立ヲナシタルニ因リ其旨通知ス

年月日

何區裁判所書記

利害關係人氏名殿

債權(否認)書  
認諾(書)

年(何)第何號不動産競賣事件ニ付キ住所氏名ヨリ配當要求アリタル旨年月日御通知相成候處該債權ハ自分ニ於

テ(否認)(否認)致候間此段申出候也

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿

名殿

債務者

氏

名

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

權否認ノ通知

年(何)第何號不動産強制競賣事件ニ付キ年月日配當要求ノ申立アリタルニ其債權ハ債務者氏名ニ於テ否認ノ申出有之ニ付キ通知ス

年月日

何區裁判所

書記

氏

名

配當要求債權者氏名殿

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス六四七、六六二、六六四、六六七、六七一一六七四、六八〇、六九三、六九五、六九六、七〇二、六五八

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



第一 差押債権者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債権者六四二、六四三

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上権利者

第四 不動産上権利者トシテ其債権ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル

者六五〇、民三〇五、三二五―三二八

第六百四十九條 差押債権者ノ債権ニ先タツ債権ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引

受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ

賣却ヲ爲スコトヲ得ス六五六、六六二、六九九、六五二、六五四、六五五

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス（民法施行法

第五十一條ヲ以テ改正）民三二五、三六九

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債権ヲ

辨濟スル責ニ任ス（同上）（民二九五）

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債権及ヒ質

權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債権ヲ辨濟スル責ニ任ス（同上）民三四二、三五六一  
三六一

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ

知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債権ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シ

タル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルト

キト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ五五二、五五三

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス六九六

競賣手續停止申立

年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ債務者ハ債権者ト示談中ニ付キ年月日マテ競賣手續ヲ停止相成度申立  
仕候也

年月日

差押債権者

氏

名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債権ニ付テノ強制執行

何裁判所宛

配當要求債権者	氏	名
不動産上ノ債権者	氏	名
債務者	氏	名

競賣手續停止決定

債権者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者間ノ不動産強制競賣事件ニ付キ差押債務者ヨリ示談中ノ旨ヲ以テ利害關係人一同ノ同意ヲ得一時競賣手續停止ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ當裁判所ハ其申立ヲ理由アリト認メ決定スル左ノ如シ

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

競賣取下申請

年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ双方示談相付キ候間本件御取下相成度候也

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿

債権者 氏 名

決定

債権者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者間ノ不動産強制競賣事件ニ付キ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル處債権者ハ取下ヲナシタルヲ以テ決定ス如左

本件競賣手續ハ之ヲ廢止ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

(注意、取下ハ競落許可決定マテハ常ニナスコトヲ得ヘシ但シ最高價ノ申立人アル時ハ其者ノ同意ヲ要ムヘシ此時ハ利害關係人最高價人ニ正本ヲ送達シ執達吏ニ通知スヘシ)

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ六八九

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲スコシ

登記囑託書

債務者氏名ノ所有ニ係ル別紙競賣開始申立書ニ記載シタル不動産ニ付キ年月日債權者氏名ヨリ強制競賣ノ申立アリタルニ因リ其申立記入ノ登記相成度及囑託候也

年月日

何裁判所

判事

氏

名

(何區裁判所)又ハ(出張所宛)

課税標準(物件、債權ノ額)

何圓

登録税

何圓

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其

期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

命令

府縣市町村番地族業

債權者 氏

名

右債權者ヨリ債務者氏名ニ係ル不動産強制競賣事件ニ付キ其手續開始決定ヲナシタルニ不動産登記簿謄本ニ因レハ該不動産ハ(他ヨリ)已ニ差押ラレタル障害(又不動産ハ他ノ名義ノ儘ニ存在スル障碍)又(世襲財産タル障碍)ヲ發見シタルヲ以テ債權者ハ年月日マテニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明スヘシ若シ右期間内ニ其證明ヲ爲サルニ於テハ本件ノ競賣手續ハ之ヲ取消スヘシ

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

障碍消滅證明書

府縣市町村番地族業

債權者 氏

名

(何)第何號不動産強制競賣事件ニ付キ其不動産ハ(已ニ他ヨリ)差押ヘラレ(他ノ名義タル)世襲財産タル(障

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

得御命令ニ基キ別紙登記簿謄本ノ如ク其障礙ヲ消滅セシメ候間茲ニ證明仕候也

年月日

右

債権者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

競賣ノ手續取消決定(障礙アレハ直チニ取消決定チナスコトアリ又其消滅ノ證明チナサシムル命令ヲ發シタル后決定スルコトアリ)

府縣市町村番地族業 債権者 氏 名

府縣市町村番地族業 債権者 氏 名

府縣市町村番地族業 債務者 氏 名

右當事者間ノ不動産強制競賣事件ニ付キ其手續ヲ開始決定シタルニ登記簿本ニ因レハ該不動産ニハ(已ニ他人ヨリ差押ヘラル障礙)(世襲産財タル障礙)(他ノ名義ノ儘ナル障礙)アルヲ發見シ競賣手續ノ進行ヲ爲スコトヲ得サルニ因リ又ハ(年月日マテニ障礙ヲ消滅ノ證明ヲ爲スコトヲ命シタルニ其期間内ニ之ヲ證明ナササルニ因リ)決定スル如左

本件ノ競賣手續ハ之ヲ取消ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

何區裁判所 判事 氏 名

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

催告書

債務者氏名ニ係ル別紙不動産ニ對シ強制競賣手續ノ開始決定ヲ爲シタルニ付キ該不動産ニ對スル債權ノ有無其限度ヲ年月日マテニ申シ出スヘシ此旨及催告候也

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

(市、町、村役場)又ハ稅務署

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不勉強ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不勉強ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

六八九

命令

住所

住所

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

鑑定人 氏 名

債務者氏名所有ノ別紙目録ノ不動産ノ評價ヲナシ年月日マテニ評價書ヲ差出ス可シ

年月日

何裁判所 判事 氏 名

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ

總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ

其旨ヲ通知ス可シ五五四、六四九、六五五、六六一

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可

キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可

キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續取消ス可シ一六五、一六六、  
八七五、一三

通知書

債權者 氏 名

年(何)第何號不動産競賣事件ニ付キ其不動産ノ最低競賣價格金何圓ナルヲ以テ當裁判所ハ其價格ニテハ差押債

權者ノ債權ニ先ツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ餘リアル見込ナシト認ムルニヨリ民事訴訟  
法第六百五拾六條一項ニ因リ此旨通知ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

競賣不動産買受申立書

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

年(何)第何號不動産競賣事件ニ付キ其不動産ノ最低競賣價格何圓ナルハ差押債權ニ先ツ不動産上ノ總テノ負擔  
及手續ノ費用ヲ辨シ剩餘ノ見込ミナキ旨御通知相成候處債權者ニ於テハ何圓ノ價格アルモノト信シ候間其價  
格以上ニ競買人ナキニ於テハ自分ニ於テ其價格ニテ買受ク可申候仍テ保證金ハ御命令次第供託可仕候也

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

不動産強制競賣手續取消決定

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

府縣市町村番地族業  
 債權者 氏 名  
 府縣市町村番地族業  
 債務者 氏 名

右當事者間ノ不動産強制競事事件ニ付キ其不動産ノ最低競賣價格ハ差押ヘ債權者ニ先立ツ不動産上ノ總テノ負  
 擔及手續ノ費用ヲ辨濟スルニ於テハ剩餘ノ見込ナキヲ以テ年月日民事訴訟法第六百五拾六條ニ因リ通知シタ  
 ルニ其期限内ニ申出ナキヲ以テ決定スル如左

本件競賣手續ハ之ヲ取消ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルト  
 キ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以  
 テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定テ公告ス六五八―六六一

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ニ具備スルコトヲ要ス六五七

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租稅其他ノ公課六四三ノ四、五、六五四
- 第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃六四三ノ六
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨七〇二
- 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所六五九、六六三
- 第六 最低競賣價額六五五
- 第七 競落期日ノ場所及日時六六〇
- 第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所六六三
- 第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨六四八、四八ノ四
- 第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨六四八

不動産競賣公告

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

年何第何號

府縣市町村番地

一土藏、木造(平家)(二階) 一棟

建坪、何坪

實測(評價人ノ取調ヘタル結果)

役所ノ公簿ニハ何々(差違ノ部分ヲ示ス)

一ヶ年ノ公課金何圓

最低競賣價格金何圓(評價格)

府縣市町村番地

一山、林、畑、田、宅、 坪、町、反、畝、步

實測(差違アレハ其部分)

一ヶ年 地租何圓

一ヶ年 公課何圓

最低 格金何圓

一右建物土地ニハ年月日ヨリ年月日マテ一ヶ月賃料金何圓ノ賃貸シ得ヘキ賃貸借設定ノ登記アリ

一右不動産ハ債務者氏名ノ所有ノ處存權者ノ申立ニ因リ強執行ニテ競賣ニ付ス

一競賣期日ハ年月日時トス

一場所ハ何區裁判所トス

一競賣期日場所 年、月、日、時、何區裁判所トス

一登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上ノ權利ヲ有スル者ハ其債權ヲ申出スヘシ

一 寄附係人ハ競賣期日競賣ノ場所ニ出張スヘシ

一此執行記録ハ何區裁判所何課ニテ閲覧スルコトヲ得

年 月 日

何 區 裁 判 所

即日當區裁判所揭示場ニ之ヲ揭示ス

裁判所書記

氏

名

(注意、公告ハ第六百六十一條ノ場所ニナスヘシ)

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ五五七、六五八

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カ

シム

實例民事訴訟法 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス六五七、六五八、六七一―六七四

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス六五七、六五八

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

公告揭示囑託書(執達吏ヲシテ揭示セシムルモ可ナリ)

別紙不動産競賣期日公告書民事訴訟法第六百六拾一條一項二號ニ依リ賣役場揭示場へ揭示相成度及囑託候也

年月日

何 裁 判 所

何村役場御中

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得六七二、六四九ノ一二、六五六、六六四、七〇五、六六五、六七八、六八六、六八七、六八九

賣却條件變更ノ申立(其他之ニ準ス)

年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ利害關係人一同ノ合意ニ因リ賣却條件ヲ左ノ如ク變更相成度候也  
一 競買人ノ保證ヲ立ル義務ヲ何々ト變更シ(競買取消ノ權ヲ何々ト變更ス)  
以上

年月日

利害關係人	氏	名
差押債權者	氏	名
債務者	氏	名
配當要求者	氏	名

何區裁判所判事 氏 名殿

決 定 (其他ノ變更決 定之ニ準ス)

債權者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者間ノ年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ利害關係人氏名ハ合意シ何々ノ賣却條件(六六四、六七八)ヲ何々ト變更シ度旨申立ニ因リ決定スル如左

實例民事訴訟法 強制執行 金銀ノ債權ニ付テノ強制執行



本件賣却條件變更ノ申立チ之ニ許可ス

年月日

何區裁判所 判事 氏名

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額申出ヲ抗告ス可シ

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス六六二、八七、六八八、六四八

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦効力アリ六六七、六六八

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモトス六六二、六七二、六五五、六六四

競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ六六三、六六五

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條 競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示六四二

第二 差押債權者ノ表示六四二

第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト六六三

第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時六六三

實例民事訴訟法 強制執行 金銀ノ債權ニ付テノ強制執行

第五 總テノ競賣價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト六六五

第六 競買ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト六六四

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト六六六

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ  
競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ六六四、六六六、六六八

不動産競賣調書

府縣市町村番地族業

差押債権者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

請求金額

請求高

一金何圓

訴訟費用

一金何圓

合計金何圓

右金額ノ辨濟ニ充ル爲メ年月日公告シタル何々(土地、建物、表示)ノ競賣期日ヲ年月、日、時、何區裁判所ニ開

キタルヲ以テ調書ヲ作ル如左

一 執行記録ハ各人ノ閱覽ニ供シ特別條件ヲ告知シタリ(特別條件アルトキハ)

一年、月、日、時、競賣價格ノ申出ヲ催告シタリ

一 別紙競賣申立人氏名價格目錄ノ通り競賣ノ申出アリ(最低價格以上ノ申出ナシ)

一 競買人氏名ハ氏名ノ申立ニ因リ何々ノ保證ヲ立タリ(又ハ保證ヲ立テサルニ因リ其競買ヲ許サ、ルコト)

一 氏名ヲ最高價競買人ト定メ其價格ニ呼上ケ月、日、時、競賣ノ終局ヲ告知シタリ

右調書ヲ左ノ利害關係人及最高價競買人ニ讀聞セタル處各承諾ノ上記名調印シタリ

最高價競買人 氏 名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

差押債權者 氏

債務者 氏

出席シタル利害關係人氏ハ調書作成前退席シタルニ依リ記名調印セシムルコト能ハス

年月日

何區裁判所

執達吏 氏

名

競 賣 人 申 出		競 買 價 格	
氏 名	住 所	金 額	何 圓
氏	住	金	何 圓
氏	住	金	何 圓

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券

ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ六六六、六九四

競賣保證金引渡書

一(金圓又ハ有價證券)

競賣保證金

府縣市町村番地族業

競買人 氏

名

右ハ年何第何號不動産ノ事件ノ競買保證金トシテ預リタルモノナルニ付キ及引渡候也

年月日

何區裁判所

執達吏 氏

氏

名

何區裁判所書記 氏

名 殿

第六百六十九條

最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルト

キハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ

第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス一四三、五二七、五九〇

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

假住所届(此届ハ執達吏ニ調書ヲ作ラシムルモ可ナリ)

年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ最高競買人トナリタルヲ以テ左ノ處ハ假住所ヲ選定仕候

府縣市町村番地

氏名方

最高競買人 氏

名

右及御届候也

實例民事訴訟法

強制執行

金銭ノ債權ニ付テノ強制執行

右 氏 名  
住居所主 氏 名

何區裁判所御中

第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第

一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新

競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競賣價額ノ申出ナキトキモ亦同

シ六五五、六六四、六六三、六四九ノ一、六五九ノ一、六七八

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

新競賣期日ノ公告文例ハ第六百五拾七條、六百五拾八條ノ公告ノ文例ニ準ス

(注意、新競賣期日ハ最低競賣價格ヲ低減シテ期日ノ公告ヲナス故ニ低減ノ結果差押債權者ノ債權ニ先ツ

處ノ不動産上ノ總テノ負擔費用ヲ辨濟シテ剩餘ノ見込ナキ時ハ第六百五十六條ノ文例ノ如キ手續ヲ爲ス

可シ)

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述

ヲ爲サシム可シ六六〇、六五九、六九二、六四八

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異

議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ六七二、六七四

競落許可ノ異議申立書

府縣市町村番地族業

異議申立人 氏 名

申立ノ趣旨

申立人ハ利害關係人タルヲ以テ債權者氏名債務者氏名間ノ年何號不動産強競賣事件ニ付キ競賣期日ニ

出張シタルニ其目的タル不動産ハ(世襲財産マルコト)(其競買人氏名ハ別紙戶籍)本ノ如ク不動産ヲ取得ス

ル能力ナキコト)發見シタルヲ以テ民事訴訟法第六百七拾二條(第一號)(第二號)ニ該當スルモノト存シ異議

ヲ提出仕候也

年月日

右

異議申立人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カサルコト 六四二、六四三、六四一、五二八―五三〇

第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト 民四一―一〇、執細六九ノ三、八六、明治五年四月十四日布告

第三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト 六五五、六七〇、六四九、六五六、六六四、七〇五、六六五、六七八、六四九ノ一、二、六八六、六八七、六九三

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト 六五八―六六一

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八 第十四條ノ規ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス 六七

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス 六七一、六七二

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

競落不許可決定

債権者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者(何)第何號不動産強制強賣事件ニ付キ競賣期日ヲ開キタル處競賣物件中(山林(宅地)(建物)何筆ノ不動産ノ實得金ヲ以テ各債権者ニ辨濟シ且執行費用ヲ償フニ足ルヲ以テ其餘ノ物件ニ付キ決定スル如左  
 本件競賣物件中別紙目錄ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許可ス

年月日

何區裁判所	判事	氏名
-------	----	----

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ六七七、六九〇  
 新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

新競賣期日ノ公告ノ文例ハ第六百五十七條ノ文例ニ因ル

(注意、異議ヲ正當トシテ其異議ノ原因ノ解消スル時ハ競賣ヲ許サスシテ更ニ其期日ヲ定ムルモノトス)

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許

ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ六七四、六七六、六七九、六八〇、六六五、六六六、六八四

競落(許可)(不許可)決定

債権者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者間ノ(何)第何號不動産強制強賣事件ニ付キ競落期日ニ出頭シタル利害關係人氏名ヨリ(目的ノ不動産ハ世財産タルコト)(最高價競買人氏名ハ不動産ヲ取得スル能力ナキコト)ナル旨ノ異議ノ申立チナシタメナリテ當裁判所ハ其異議申立チ理由アリト認メ(又ハ理由ナキモノト認メ)決定スル如左

(本件不動産ノ競賣ハ之ヲ許サス)

(本件異議ノ申立ハ之ヲ却下ス)

(別紙目錄ノ不動産ニ對シ住所氏名ハ目錄記載ノ最高價ノ申出チナシタルヲ以テ競落ヲ許可ス)

年月日

何區裁判所	判事	氏名
-------	----	----

競落期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條乃至第三百三十二條及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ準用ス

競落期日調書

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

年何第何號債務者氏名ノ不動産強制競買事件ニ付キ年月日時當裁判所公延ニ於テ判事氏名書記氏名立會  
公開ス

利害關係人氏名ハ出頭シタリ(利害關係人出頭セス)

判事ハ利害關係人ニ對シ異議ノ有無ヲ陳述スヘキ旨告ケタリ

利害關係人氏名ハ何々ト云ヒタリ

判事ハ別紙ノ通り競落許可(又ハ不許可)ノ決定ヲ言渡シタリ

右讀ミ聞(又ハ閱覽セシメタル)ニ關係人ハ之ヲ承諾シタリ

年月日

何區裁判所

判事氏

書記氏

第六百七十八條

競買期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク  
毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其  
毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ酌斟シテ之ヲ定ム六六五、六六六、六八五

競買取消申立書

債權者氏名ヨリ債務者氏名ニ係ル年何第何號不動産強制競買事件ニ付キ年月日最高價競買申出ヲナシタル

也  
年月日何々天災ノ爲メ日録ノ土地、家屋滅失又ハ毀損シタルヲ以テ先キニ申出タル競買取消相成度申立候

年月日

府縣市町村番地

競買人氏

名

何區裁判所判事氏名殿

競買取消決定

債權者氏

名

債務者氏

名

右當事者間ノ年何第何號不動産競買事件ニ付キ別紙日録不動産ノ最高競買人氏名ハ何々天災ノ爲メ該不動産  
(滅失)(毀損)シタル旨ヲ以テ競買取消ノ申立ヲナシタリ依テ當區裁判所ハ其事實ヲ審査シタルニ何々天災ニ  
因ル(滅失)(毀損)ノ程度著キモノト認メ(又ハ天災ノ爲メ競買ヲ取消ス程ノ毀損シテラスト認メ)決定スルコ  
ト如左

本件氏名ノ競買申出ハ之ヲ取消ス(又ハ氏名ノ申立ハ之ヲ却下ス)

年月日

何區裁判所

判事氏

名

(注)申立却下ノ決定ニ

例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

七條ノ文例ニ準ス

又此後ニハ第六百八十五條ニ因リ六百五十五條ノ鑑定ヲナシ六百五十六條、六百五十七條ノ公告ノ手續  
ヲナシテ更ニ競賣スヘシ

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シ  
タル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ク  
可シ六七七、六六二、六六三

競落許可決定

府縣市町村番地族業

競買人

氏

名

債務者氏々所有不動産強制競賣事件ニ付キ別紙目ノ不動産ニ對シ全目錄ニ記載セシ最高價金ノ申出ヲ爲シ  
タルニ因リ(特別)却條件ヲ以テ第六百六十六條ニ此不動産ノ競落ヲ許可ス

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

公 告

競落許可ノ決定(全文)

右公告ス

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ

於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得六四八

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ

主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ

爲スコトヲ得六六六

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス四六〇

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クル

モノトス六八一、六六五

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

四四七



抗告狀（此ノ他ノ抗告ハ之ニ準ス）

府縣市町村番地族業  
抗告人 氏 名

競落不許決定表示

何區裁判所ハ年何第何號事件ニテ競賣目的ノ不動産ハ何々（不許ノ原因ノ第六百七拾二條ノ一項ナリ）若クハ（不融通物）（世襲財産）トシテ 月日競落不許ノ決定ヲナセリ

不服ノ趣旨

債務者氏名ノ不動産ハ（一時不融通）（世襲財産ノ如ク）ナリシカ年月日解除セラレ居ルコトハ何號ノ證ニテ明了ナルニ原裁判所ハ其證據ヲ調査セスシテ不融通物ト断定シ不許ノ原因アリトシテ競落ヲ許可セサルハ不當ニ付キ更ニ相當ノ決定ヲ仰度及抗告候也  
一定ノ申立

右ノ次第二付キ原決定ヲ廢棄シ何々不動産ヲ最高價金何圓ニテ抗告人氏名ニ競落ヲ許可スト御決定相成度候也

附屬書類

一何々

年月日

右 抗告人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得六八〇、六七二、六八二

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得六六五、六七七  
取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラ  
ルルコト無シ四六八、四六九

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ四六二  
一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ六八〇

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス  
第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行  
裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ六七九

決定

府縣市町村番地族業  
抗告人 氏 名

年(何)第何號抗告事件ニ付キ當裁判所ハ決定スル如左

本件抗告ハ之ヲ却下ス

又ハ原決定ヲ廢棄シ何々不動産ヲ最高價金何圓ヲ以テ抗告人氏名ハ競落ヲ許可ス (注意第四百六十四條ニ因  
ルコト)  
ナ得)

理由

抗告人ハ云々ト云ヒ(其理由アリ)又ハ(理由ナシ)(何レモ理由ヲ詳述ス)仍テ主文ノ如ク評決ス

年月日

何地方裁判所民事部  
裁判長判事 氏 名

判事 氏 名  
判事 氏 名

公告

抗告ニテ原決定ノ變更廢棄ノ決定(抗告裁判所決定全文)

右公告ス

年月日

何區裁判所 書記 氏 名

(注意、取消原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ノ文例第四百七拾五條ノ文例ニ準ス)

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競  
買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル六六五、六六六、六七七、六八三

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ  
第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス六七八、六五八、六九〇

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノト

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

ス六六二、六八〇、六八八、六七八、六九四、六五〇、民五六八  
第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ム  
ルコトヲ得ス六八八、民五七三

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ  
管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ五五四

競賣不動産管理申立

債權者 氏 名  
債務者 氏 名

右當事者ノ年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ別紙目錄ノ(土地又ハ建物)ノ自分へ競落相成候ニ付テハ債  
務者ニ保管セシメ置クハ危険ニ付キ住所氏名ニ管理セシメ度候間同人ニ該不動産ヲ管理御命令相成度申請仕  
候也

年月日

府縣市町村番地  
競落人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名

不動産管理命令

府縣市町村番地  
氏 名

年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ競落人氏名ノ申立ニ因リ債務者氏名ノ別紙目錄不動産細理ヲ命ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲ  
シテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ五四五、五五八

競賣不動産引渡申立

債權者 氏 名  
債務者 氏 名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

右當事者間ノ年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ別紙目錄ノ(土地、建物)ニ對シ露ニ管理人選定ノ御命令  
相受候處債務者ニ於テ引渡ヲ拒ミ候間執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ之ヲ管理人ニ引渡スヘキ旨御命令相  
成度候也

年月日

府縣市町村番地

競落人 氏 名

競賣不動産引渡命令

執達吏 氏 名

年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ競落人氏名ノ申立ニ因リ別紙目錄ノ不動産ニ對スル債務者ノ占有ヲ解  
キ管理人氏名ニ引渡スヘキコトヲ命ス

年月日

何區裁判所

判 事 氏 名

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ

職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ六三九、六九四ノ二ノ二號、六五五、六六一

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適  
用ス六五九ノ一、六七〇ノ二

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タルヘシ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再  
競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最  
初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ  
額ヲ請求スルコトヲ得ス

再競賣命令

債權者 氏 名

債務者 氏 名

右當事者間ノ不動産競賣事件ニ付キ別紙目錄ノ不動産ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ命ス

年月日

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

何區裁判所

判事

氏

名

(注意、再競賣ヲ命シタル時ハ公告ナス其文例ハ第六百五十七條第六百五十八條ノ文例ニ準ス)

再競賣取消決定

債權者

氏

名

債務者

氏

名

右當事者ノ強制競賣事件ニ付キ其物件ノ再競賣ヲ命シタルモ競落人ハ競落代金、手續費用ヲ拂ヒタルニ因リ本件再競賣ノ手續ハ之ヲ取消ス

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強

制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ

通知ス可シ六五一、民二四九—二六四

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

共有物ノ強制競賣ノ手續キノ文例ハ、第六百四十二條以下ノ各文例ニ準ス

共有者ニ其強制競賣ノ申立アリタルコトヲ通知スヘシ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百

五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑記ス可シ六五〇ノ三、六五

六、六八五、六七二、六七四、六七六、三七七

登記抹消囑託書

債權者	氏	名
債務者	氏	名

右當事者間年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ年月日別紙ノ不動産ニ對シ(債權者ニ於テ、強制競賣ヲ取下タルヲ以テ其手續ヲ取消シ)最低價格カ不動産上ノ總テノ負擔ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ル見込ナク手續ヲ取消(異議ノ申立ニ因リテ強制競賣ヲ許ス可カラストシ手續ヲ取消)ノ決定候間強制競賣申立記入ノ登記ヲ抹消成度及囑託候也

登録税 何 圓

年月日

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

何區裁判所 判事 氏 名

何區裁判所(出張所)御中

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ  
六九七、六三九、民三〇六一三四一、三四二一三六八、三六九一三九八、舊商一〇三二、國稅徵收法、全滯留處分法、地方稅備荒儲蓄金滯納者處分法

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ  
六二七、六五八、六六〇、六七一

前項 規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

計算書

一金何圓	元	金
一金何圓	利	子
一金何圓	費	用(訴訟及執行)
一金何圓	其ノ他ノ	附帶費

合計金何圓也

右ハ債務者氏名ニ對スル請求金額ノ計算書ニ相違無之候也

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス  
六九三、六九四

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ  
六四八、六四七ノ二

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ  
六九六、六九九、六九三、六八六、六七九、六八八、民四〇四

左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競

落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息六六四、六六八

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配

當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ 六九三ノ二、六九二、六二八、六九六、  
六三三、六九七、六三〇、六九八

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ

順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ 六九四、六九二、六九一

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル  
債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

配當表

賣却代金	物件	債務者氏名
------	----	-------

順位	債權者氏名	元金	利息	費用	合計	配當割合	配當額	辨濟過不足	債權者氏名

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條

以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス六

三〇一六三九、六九八、七〇〇

配當期日調書

債務者氏名ニ對スル不動産強制競賣事件ニ付キ年月日時當裁判所法定ニ於テ判事氏名書記氏名、差押債權者  
氏名、執行力アル正本ニ因ル配當要求債權者氏名、執行力正本ニ因ラサル配當債權者氏名、登記簿ニ記入ア  
ル不動産上ノ債權者氏名、債權者氏名等立會配當期日ヲ開ク

一 競落人氏名ハ競落代金ヲ上納セリ

一 判事ハ競落人ヲ除キ他ノ債務者ニ配當表ニ示シ異議ノ有無ヲ問ヒタリ

一 各債務者氏名ハ(異議アル旨)又ハ無之旨ヲ申立タリ

一 若シ有之トキハ停止條件ノ債權未確定ノ債權異議アル配當額期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額債務者ノ認

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

諸セシテ確定セサル債權假差押ノ債權ハ之ヲ供託シタリ

茲ニ於テ判事ハ配當表ニ基キ配當ヲ實施シタリ(異議ノナキ部分ノミナ配當シタリ)

右讀聞(閱覽)セタルニ干係人ハ承諾シタリ

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

書記

氏

名

供託書

一金何圓也

債權者氏名債務者氏名間ノ何區裁判所何號  
強制競賣事件ノ配當金

右ハ民事訴訟法第六百三拾條三項第六百三拾九條四項ニ依リ供託候也

何區裁判所

書記

氏

名

何金庫御中

第六百九十八條

期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權ノ債權者ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ

主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ六九一

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

リ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及  
ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

配當異議ノ訴

府縣市町村番地族業

原告人 氏

名

府縣市町村番地族業

被告人 氏

名

請求ノ原因

原告人ニ對スル年何號何號不動産強制競賣事件ニ付キ其不動産賣得金配當ニ際シ被告人ハ原告ニ對シ債權アリト稱シ配當加入ノ申立ヲナセリ然レトモ其債權ハ(執行正本ニ由ラサル債權ナレハ)(虛無又ハ辨濟シテ存立セサルコト)又ハ(執行正本ニ因ル債權ナレハ其ノ判決確定後何々ノ原因混同、相殺ノ如キ)ニテ消滅シタルヲ以テ云々)被告人カ配當要求ノ權利ナキモノト存候間被告人ハ配當要求ノ權ナク且ツ已ニ着日シタル強制執行ヲ取消スト判決相成度候也

又右判決言渡マテ強制執行停止アラント併セテ要求仕候

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



立 證

一何々

一定ノ申立

右ノ理由ナルヲ以テ被告人ハ配當要求ノ權ナク且ツ已ニ着手シタル強制執行ヲ取消スト判決相成度候也

年 月 日

原告人 氏 名

何々區裁判所判事 氏 名殿

判 決 (區裁判所ナレハ一人ノ判事之ヲナス)

府縣市町村番地族業 原告人 氏 名

府縣市町村番地族業 原告人 氏 名

府縣市町村番地族業 原告人 氏 名

府縣市町村番地族業 原告人 氏 名

右當事者間ノ配當異議事件ニ付キ當裁判所ハ判決スル如左

主 文

(原告ノ申立ハ之ヲ却下ス 強制執行ノ停止ハ之ヲ取消ス)

(被告人ハ何々事件ノ配當要求ノ權ナシ己ニ着手シタル強制執行ハ之ヲ取消ス) 此点ニ關スル判決ハ假リニ執行スルコトヲ得

事 實

原告人ハ云々ト(訴ノ要旨)云フニ在リ

被告人ノ云々ト(答辨ノ要旨)云フニ在リ

理 由

(被告人ハ云々ト云フモ何々ノ證據アルヲ以テ其答辨ハ信ヲ措キ難シ)(原告人ノ主張ハ何々ト云フモ何々ニテ其要求ノ權利ナシ)(理由ヲ述フヘシ)仍テ主文ノ如ク判決ス

何地方裁判所

裁判長判事 氏 名

判 事 氏 名

判 事 氏 名

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ

際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ

債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ六四九、六六二、六九八、八七、民五二三―五二八、五二〇

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ 六九四、六四九、六六二、六三〇―六三九、六五一、六九七、不動産登記法、二九

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

登記囑託書

府縣市町村番地族業

債權者 氏

名

府縣市町村番地族業

債務者 氏

名

右當事者間ノ年何第何號不動産強制競賣事件ニ付キ別紙債務者所有ノ不動産ニ對シ氏名競落人トナリ所有權ヲ獲得候間左ノ登記相成度候

一住所氏名へ年月日競落許可決定ニ付キ其所有權ノ登記

一競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消(抵當質權ノ類)

一競賣申立記入ノ抹消

一價格 何 圓

一登録税 何 圓

一附屬書類 何 圓

右登記相成度及囑託候也

年 月 日

何區裁判所

判 事

氏

名

何區裁判所(出張所)御中

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス六一九、六四五、六四二―七〇一

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

不動産入札拂申立

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

右當事者間年(何)第何號不動産競賣事件ハ入札ノ方法ナレハ高價ニ賣却シ得ラル、モノト存候間競賣ニ代ヘ入札拂ヲ命セラレ度申立候也

年月日

債權者 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

不動産入札拂命令

債權者 氏 名

債務者 氏 名

右當事者間ノ不動産強制競賣事件ニ付キ別紙ノ不動産ハ債權者又ハ(利害關係人)氏名ノ申立ニ因リ(又ハ職權ニテ)競賣ニ代ヘ入札ニテ賣却ヲ命ス

年月日

何區裁判所

判事 氏 名

(注意) 入札ハ競賣期日公告前ニ申立ヲ要スルモノナレハ競賣期日ヲ入札期日トシ(第六百五十七條第六百五十八條)公告ノ場所(第六百六十一條)賣却條件ノ變更(第六百六十二條)競賣ノ調書(第六百六十七條)執達更ノ爲ス手續(第六百六十八條)仮住所(第六百六十九條)新競賣期日公告(第六百七十條)第六百七十六條)競落ノ異議(第六百七十二條)競落不許(第六百七十五條)競落期日調書(第六百七十七條)競買取消及公告(第六百七十八條)抗告ニ付テ(第六百八十條)第六百八十三條)管理引渡(第六百八十七條)再競賣命令及取消(第六百八十八條)取下登記抹消(第六百五十條)第六百九十二條)計算書(第六百九十二條)配當者(第六百九十六條)供託書(第六百九十七條)第六百三十條)第六百三十九條)配當異議(第六百九十八條)所有權登記(第七百一條)ノ文例ハ入札ノ文例ニ準用ス

實例民事訴訟法

強制執行

金銀ノ債權ニ付テノ強制執行

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ六四二一七〇一

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示六四二一

第三 入札價額七〇四

入札書

府縣市町村耕地族業

入札人 氏

名

一土地田、畑、宅地、山林

町、反、畷、歩、坪數

一木造瓦葺、板、平家

何 棟

一土藏

何 棟

建坪

一入札金何圓也

年月日

右 入札人 氏 名

(注意、入札ハ密封シテ執達吏ニ差出ス可シ)

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價

入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

追加入札ノ文例ハ前條ノ文例ニ因ル(七〇四ノ二)

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受タル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

負擔スル義務アリ六六一

第三款 強制管理

第六百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス 六四〇、六四三ノ三  
不動産カ債権者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルニトテ証明スル證書ヲ以テ足ル

不動産強制管理ノ申立書

府縣市町村番地族業	債權者	氏	名
府縣市町村番地族業	債務者	氏	名
府縣市町村番地族業	第三者	氏	名

不動産表示

所在(場所ヲ示)スヘシ  
一(土地)(建物) (田、畑、山林、宅地、反則、坪數)  
(木造土蔵、瓦、板葺坪數)  
債權ノ表示

一金何圓	貸金元本
一金何圓	利子

強制管理ノ原因タル事實

債權者ハ債務者ニ對シ年月日金何圓ヲ貸與シ利子ハ年何割ト定メ返済ヲ年月日トナシタルニ債務者ハ返済期ニ至ルモ返済セサルヲ以テ(執行力アル判決正本)(又ハ公正證書正本)ニ因リ其不動産ヲ競賣ニ付セントスルモ該不動産ニハ數多ノ負債アリテ之ヲ賣却スルモ債權者ノ目的ヲ全フスル能ハサルノミナラス債務者モ不利益ナリ然ルニ該不動産ハ第三若クハ住所氏名ニ貸貸シ年々若干ノ收益アルニ因リ其不動産ニ強制管理ヲナシ第三者ヨリノ收益ヲ得テ辨濟ニ充當セハ債務者ノ爲メ容易ニ辨濟シ得ヘシト存候間該不動産ニ對シ強制管理ノ御決定相成度申立候也

附屬書類

- 一判決ノ正本(公正證書正本)
- 一土地台帳

- 一 登記謄本
- 一 公課、地租ノ證明書
- 一 貸貸借ノ證明書
- 一 郵便切手納書

年月日

債權者 氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

(注意、貸貸借公課ノ取調申立ノ文例ハ第六四三條ノ文例ニ申立不適式トシテ却下ノ文例ハ第六四二條ノ文例ニ準スヘシ)

命令

何區裁判所 執達吏 氏 名

債務者氏名ノ別紙不動産ニ付キ第三者ノ有無(貸貸借、小作)其收益ノ取調ヘテ命ス

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

(注意、右命令ハ第三者アル時其氏名住所收益ノ現況ヲ先ツ以テ取調ヘ然ル後開始決定ヲ爲ス又其取調ヘハ執達吏ヲ以テ之ヲ爲ス)

第七七七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト又不動産ノ收益ニ付處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ<sup>一三七六四四ノ三</sup>既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ズ<sup>一三七</sup>

不動産強制管理開始決定

府縣市町村番地族業

債權者 氏 名

府縣市町村番地族業

債務者 氏 名

府縣市町村番地族業

實例民事訴訟法 強制執行 金銀ノ債權ニ付テノ強制執行

第三者 氏 名

請求金

一金何圓

一金何圓

請求高

年月日  
付元金  
年月日ヨリ年  
月日マテ利子

合計金何圓  
右金額ハ年月日(何裁判所書記ノ付與シタル判決正本)又ハ公證人氏名ノ付與シタル執行力アル正本)ニテ債  
務者ノ辨濟スヘキモノトス  
前記金額ノ辨濟ニ充ル爲メ當區裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ別紙目錄ノ債務者所有ノ不動産ニ強制管理ノ手  
續ヲ開始シ債權者ノ爲メニ之ヲ差押フルモノトス  
當區裁判所ハ住所氏名ヲ以テ本件強制管理ノ手續ヲ管理人トス  
債務者ハ右管理人ノ事務ニ干渉ス可カラズ且本件差押ヘ不動産ノ收益ニ付キ處分スヘカラス  
第三者ハ本件差押以後ノ收益ノ給付ヲ前記管理人ニ爲ス可シ

年月日

何區裁判所 判 事 氏 名

(注意、強制管理登記屬託ハ第六五一條ノ文例ニ強制管理開始ノ障礙ノ通知、全證明書取消ハ第六五三條

ノ文例ニ不動産ノ負擔ノ催告ハ第六五四條ノ文例ニ準ス)

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立ア

ルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス六四五、六四三ノ三

右申立ハ執行記録ニ添付スルニ依リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管  
理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス六三〇

申立ヲ不道法トシテ却下スル文例ハ第六四二、三條ノ文例ニ準ス

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲ

モ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ  
五八九、五九〇、  
六二〇、六四六

配當要求ノ申立

一金何圓

元 金

一金何圓

利 子

一金何圓

訴訟費用

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

合計金何圓也

右ハ年何第何號強制管理事件ニ付キ別紙執行力アル正本ノ如ク債務者氏名ニ對シ執行スヘキ金額ニ配當要  
仕候也

年月日

府縣市町村番地

配當要求者 氏

名

何區裁判所判事 氏 名殿

仮住所届

府縣市町村番地氏名方

配當要求者 氏

名

右ノ住所ヲ本件配當要求事件ノ仮住所ニ選定仕候間及御届候也

年月日

配當要求者 氏

名

何區裁判所 中

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ

管理人ニ通知ス可シ七〇八、七〇九

通知書

年何第何號強制管理事件ニ付キ(氏名ヨリ更ニ強制管理ノ申立アリ)又ハ(氏名ヨリ配當要求アリ)タルヲ以テ  
此旨通知ス

年月日

何區裁判所

書記

氏

名

管理人 氏 名宛

債權、債務者 氏 名宛

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得七

二三、

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受  
クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得五三六

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

管理人選任ノ申立

住 所

氏 名

右者債務者氏名ニ係ル強制管理事件ニ付キ別紙不動産ノ管理收益ノ爲メ管理人ニ適當ト思料候間全人ヲ右管理  
人ニ御選定相成度申立仕候也

年 月 日

住 所

氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

管理人選任ノ命令

住 所

氏 名

右ハ債務者氏名ニ對スル不動産強制管理事件ニ付キ別紙不動産ノ管理ヲ命シ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス  
キ收益ヲ取立ル權利ヲ付與ス

年 月 日

何區裁判所

判 事

氏

名

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ

鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ

可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スル

コトヲ得五五八、七二一

命 令

鑑定人

氏

名

年何第何號強制管理事件ニ付キ債務者氏名所有ノ別紙目錄ノ不動産何々(物件ノ賃貸料小作料又ハ管理ノ報酬額ノ如キ)鑑定ヲ命ス  
年 月 日

何區裁判所

判 事

氏

名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

命令

年何(第何號)強制管理事件ニ付キ別紙目錄ノ管理(物件)ハ何々ノ方法(貸貸、小作ノ方法又ハ其方法ノ變更ノ如キ)ニ依リ管理スヘキコトヲ指揮ス

年月日

何裁判所

判事

氏

名

管理人

氏

名

年何(第何號)強制管理事件ニ付キ管理ノ報酬トシテ一ヶ月金何圓ヲ給與ス

年月日

何裁判所

判事

氏

名

命令(此命令ハ裁判所ノ必用ト認ムルトキニ發ス)

管理人

氏

名

年何(第何號)不動産強制管理事件ニ付キ管理人ヲ命ジタルニ付キ其行為ヨリ生スヘキ損害ノ爲メ又ハ賠償ノ用上)金何圓ノ保證ヲ立ツヘキコトヲ命ス(保證ハ不動産又ハ有價証券ノ如キモノナリ)

年月日

何裁判所

判事

氏

名

決定

右ハ年何(第何號)事件ノ管理人在職中何々ノ行為(事實ニ因ル)ヲ爲シタルハ裁判所ヨリ(指シタル範圍)ニ違背シタル)行為ト認ムルヲ以テ當裁判所ハ左ノ如ク決定ス  
管理人ヲ(何圓ノ過料ニ處ス)又ハ(其職ヲ免ス)

年月日

何裁判所

判事

氏

名

(注意)右決定ニハ第四五七條ノ文例ニ因リ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(五五八)

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキ  
ハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス(五四九、五四七、五四八、五一)

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

不動産管理ニ對スル異議ノ訴

府縣市町村番地族業

異議申立 (第三) 氏 名

府縣市町村番地族業

被異議申立人 (債權者) 氏 名

不動産強制管理決定ノ表示

年月日何區裁判所ハ債權者氏名ノ申立ニ因リ債務者氏名ノ何々不動産ニ對シ強制管理ノ決定ヲ爲シタリ

訴ノ原因

右ノ如ク強制管理ノ決定ヲナシタルモ其目的タル物件ハ何號證ノ如ク異議申立人ノ所有ニシテ (又ハ使用、ルカ) 訴外人タル債務者氏名ニ係ル債務名義ニテ強制執行ヲ受クヘキ筋合ノモノニアラサルヲ以テ本訴強制管理ハ許スヘキモノニアラスト思料シ且ツ此儘ニ執行セラレ、ニ於テハ危險ニ付キ強制管理ノ手續ヲ停止シ已ニ爲シタル手續ヲ取消シ度併セテ茲ニ及本訴タル次第ナリ

一定ノ申立

右ノ次第ニ付キ原決定ヲ取消シ被異議申立人ノ要求ニ係ル強制管理ハ許サス (強制管理ノ手續ヲ停止) 又ハ (已ニ爲シタル手續ヲ取消ス) ト判決相成度候也

立 證

何々ヲ以テ立證ス

附屬書類

一何々

年月日

異議申立人 氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

(注意、停止、及取消ハ別ニ申立ツルモ可ナリ又債務者ヲ共ニ訴フル時ハ之ヲ表示スヘシ)

決 判

府縣市町村番地族業

異議申立人 氏 名

府縣市町村番地族業

被異議申立人 氏 名

右當事者間ノ強制管理異議事件ニ付キ當裁判所ハ判決スル如左

實例民事訴訟法 強制執行 金銀ノ債權ニ付テノ強制執行

主 文

異議申立人ノ異議ハ之ヲ却下ス(又ハ原決定ヲ取消シ氏名申立ノ強制管理ハ之ヲ許サス)(強制管理ノ手  
ハ之ヲ停止ス又ハ已ニ爲シタル手續ハ之ヲ取消ス)  
此判決ハ仮リニ執行スルコトヲ得

事 實

異議申立人陳述ノ要旨ハ云々……………第何號證ヲ提出シタリ  
被異議申立人答辨ノ要旨ハ云々……………第何號證ヲ提出ス

理 由

異議申立人ハ(云々ト主張スルモ)被異議申立人ハ云々ト云フモ(何々ノ理由ニテ(又ハ停止、取消ハ理由ア  
リ)仍テ主文ノ如ク判決ス

何裁判所民事部(制度ニ依テ判事ノ數ヲ異ニス)  
判 事 氏 名

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租

税其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ  
配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ(七一、七〇八、

七〇九、七五二、六三〇—六三九

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九  
十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲  
サシム可シ(七一六)

本條ノ事情屆書ハ第六二八條ノ文例ニ配當表ハ第六二七條ノ文例ニ準スヘシ又配當ニ付テノ異議ハ第六九八  
條ノ文例ニ準スヘシ(六九六乃至六九八)

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ

計算書ヲ差出ス可シ(七一)

計 算 書

一金何圓	不動産及附屬物
内 譯	ヨリ生スル收益
金何圓	租税、公課
金何圓	費用
實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行	

各債權者へ配當合計  
金額各別ハ配當表

金何圓

合計金何圓

差引キ殘額ナシ

右ハ何年ヨリ何年マテノ計算又ハ管理人ノ業務終了ノ計算相違無之候也

年月日

管理人 氏 名

(何裁判所判事 氏 名殿)

(債權、債務者 氏 名殿)

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議  
ノ申立ヲ爲スコトヲ得

計算ニ對スル異議申立

府縣市町村番地

異議申立人(債權者(債務者) 氏 名

府縣市町村番地

被異議申立人 氏 名

申立ノ旨趣

被異議申立人ヨリ年月日受領シタル管理ノ計算書ニ因ルト収益總額ハ何圓トアルモ(申立人ノ計算書ニ因レ  
ハ何圓トナリ)又ハ(支出ナ金何圓トシタルモ何號證ニ因レハ何圓ナリ)又ハ(配當ノ相違)ナリト思料シ異議  
ノ申立ヲ仕候間相當ノ御決定相成度候也

年月日

異議申立人 氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シ  
タルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申  
立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可  
シ五四三ノ三、五五八

決定

府縣市町村番地族業

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

異議申立人 氏 名  
 府縣市町村番地族業  
 被異議申立人 氏 名

右計算異議事件ニ付キ當裁判所ハ決定スル如左

主 文

異議申立ハ之ヲ却下ス(又ハ計算書中何々ヲ何々ト訂正ス)

理 由

異議申立人ハ云々ト主張スルヲ以テ被異議申立人氏名ヲ訊問シタルニ(何々ハ何々ノ誤リ)又ハ(其主張ノ如ク計算ノ点ニ一ノ誤リナキヲ以テ)主文ノ如ク決定ス

年 月 日

何裁判所 判 事 氏 名

(注意、此決定ニ對シ第四五七條ノ文例ニ因リ抗告ヲ爲スコトヲ得、五四三ノ三、五五八)

命 令

管 理 人 氏 名

其管理ニ屬スル不動産ノ(何ケ年間計算)又ハ(業務終了ノ計算)ハ債權者債務者ニ於テ(異議ナク)又ハ(異議

確定シタルヲ)以テ此計算ニ對シ管理人ハ卸任シタルモノトス

年 月 日

何裁判所 判 事 氏 名

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス五四七―五四九

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

決 定

府縣市町村番地族業  
 債權者 氏 名  
 府縣市町村番地族業  
 債務者 氏 名

右當事者間ノ年(何)第何號不動産強制管理事件ニ付キ其目的タル不動産カ強制競賣ニテ競落シタルニ因リ又ハ(其中立ヲ却下シタルニ因リ)又ハ(強制管理ニ因リ各債權者ニ辨濟ヲ了シタルニ因リ)(目的ノ不動産ノ天災ニテ收益不能ニ歸シタルニ因リ)又ハ(異議ノ訴ノ判決ニテ其管理處分ヲ取消シタルニ因リ)又ハ(債權者カ必用ナル金額ノ豫納ヲ命セラレタルニ豫納セサルニ因リ)當裁判所ハ決定スル如左

本按強制管理ノ手續ハ之ヲ取消ス

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

年月日

何裁判所 判事 氏 名

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得五五四

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ六五一、七〇六

登記囑託

府縣市町村番地

債權者 氏 名

府縣市町村番地

債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號不動産強制管理事件ニ付キ年月日別紙目錄ノ不動産ニ對シ當廳ニ於テ強制管理ノ決定ヲ取消シ候條強制管理ニ關スル記入抹消登記相成度及囑託候也

年月日

何裁判所 判事 氏 名

何區裁判所(又ハ出張所)宛

登録稅標準 金何圓(物件ノ價格)

登録稅 金何圓

第三節 船舶ニ對スル強制執行 明治卅二年勅令第二七〇號船組登記規則、全年法律第四六號船組法

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ

從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段

ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス六四二、七〇五、七二三、商五三八、船六、七、五五、船登ノ七

端舟其他榜權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ榜權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定

ヲ適用セス五六五

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以

テ管轄執行裁判所トス七二六、五六三、六二五

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ヲニ因リ航行ヲ許  
スコトヲ得六四八、七三二

船舶強制競賣ノ申立

府縣市町村番地族業	氏	名
申立人(債權者)	氏	名
府縣市町村番地族業	氏	名
債務者	氏	名
府縣市町村番地族業	氏	名
船舶所有者	氏	名
府縣市町村番地族業	氏	名
船長(債務者ナルトキ)	氏	名

請求金額

一金何圓

貸 金

船舶ノ表示

府縣市町村(船舶碇繋地)

一 汽船(又ハ帆) 船名  
 船材、噸・石數(和帶、西洋形)  
 附屬物件(船ノ附屬物一切)

競賣ノ原因

申立人ハ債務者船舶所有者ナル氏名ニ年月日前記ノ金圓ヲ貸與シ利子ヲ年何割トシ年月日返済ト定メタルニ  
 債務者ハ利子ハ勿論元金ヲ返済セサルニ因リ其船舶ヲ強制競賣ニ付シ其代金ヲ以テ辨濟ヲ受ケ度(又ハ船  
 ニ對シタル判決正本ニ因リ其船舶ヲ強制競賣ニ付シ辨濟ヲ受度)茲ニ年月日何裁判所書記ノ付與シタル判決  
 正本ヲ以テ強制競賣ノ開始決定ヲ申請シタル次第ナリ

一 貸貸借ハ(登記簿ノ通り)年月日ヨリ年月日マテ何ケ年間轉貸シ得ル貸貸借設定ノ登記アリ  
 請求ノ旨趣

右ノ次第ニ付キ前記ノ船舶ニ對シ強制競賣開始決定相成度候也

附屬書類

一 公課證明書

一 債務者カ所有者ニシテ船舶ヲ占有スル證明書(船長カ債務者ナルトキハ船長トシテ其船舶ヲ指揮スルコト  
 ノ證明書)

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行



一 船舶ノ登記簿謄本

年月日

申立人 氏

名

何區裁判所判事 氏 名 殿

(貸借)(公課金)取調申請(各通ヲ要ス)  
(六四三ノ三)

別紙船舶ニ付キ(貸借アルヤ)又ハ(年幾干ノ公課金アルヤ)取調ヘ兼候間御取調ヘ相成度申請仕候也

年月日

申立人 氏

名

何區裁判所判事 氏 名 殿

船舶強制競賣ノ開始決定

府縣市町村番地族業

申立人 氏

名

府縣市町村番地族業

債務者 氏

名

府縣市町村番地族業

船舶所有者 氏

名

一 別紙目錄

事實

強制競賣船舶ノ表示

府縣市町村番地族業

船長 氏

名

申立人ハ債務者、船長ニ(船舶抵當)年月日金圓ヲ貸與シ利子ナ年何割トシ年月日辨濟ノ約ナルニ辨濟セサルヨリ年月日(公證人)(裁判所書記)ノ付與シタル執行力アル正本ニ因リ右船舶ノ強制競賣ノ申立ヲナセリ當裁判所ハ其申立ニ因リ強制競賣ノ手續ヲ開始ス

本件目的ノ船舶ハ此強制競賣手續執行中碇泊港ニ碇泊セシムヘシ

年月日

何區裁判所

判事 氏

名

- 一 貸借、公課證明ノ取調ヘノ命令ハ第六四三條ノ文例ニ準ス
- 一 登記囑託ハ第六五一條ノ催告ハ第六五四條ノ鑑定ハ第六五五條ノ各文例ニ準スヘシ
- 一 障礙消滅ニ關スル命令ハ第六五三條ノ全上證明書ハ第六五二條ノ文例ニ準ス可シ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

- 一 強制競賣取消ニ關スル決定ハ第六五二條ノ文例ニ準スルニ
- 一 差押債權者ニ先ツ不動産ノ總テノ負擔ヲ辨濟シテ剩餘ナキ見込ノ通知、競賣不動産買受ノ申立、此場合ニ於ケル競賣手續取消決定ノ文例ハ第六五六條ノ文例ニ準ス
- 一 却下ノ決定ハ第六四二條第六四三條ノ文例ニ準ス
- 一 示談ニ付キ競賣ノ停止、手續キノ取消シハ第六九〇條第六五〇條ニ準ス可シ

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

- 第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ説明スルニ足ル可キ證書  
七三二、商五六五―五七二

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有効ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本船登七、以下

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得六四三ノ四、五號

船舶登記簿抄本取寄申請

別紙船舶ニ強制競賣ノ申立ヲ爲シタルモ右登記簿保管官廳ハ(何處)ニテ其抄本取寄セニ日數ヲ要シ候間右登記簿抄本ヲ何官廳ヨリ御取寄セ相成度申請仕候也

年月日

何區裁判所判事 氏 名殿  
申立人 氏 名

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ効力ヲ生ス  
若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得六四四ノ三、五五四

船舶(監守)(保存)ノ必要處分申請

別紙目錄ノ強制競賣事件ニ付キ差押ハ船舶ヲ(其儘ニ爲シ置クハ危險ニ付キ看守者ヲ置キテ監守セシメ)又ハ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 四九九

(其一部破損シタルヲ以テ此儘ニ爲ストキハ競買人モ之レ無キ結果ニ至ル可シト存候間修繕ノ上保存仕リ)度  
候間御處分御命令被下度申請仕候也

但シ必要ノ費用ハ御命令次第豫納仕候也

年月日

債權者 氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

命 令

債權者 氏 名

債權者ノ申立ニ係ル船舶強制競買事件ニ付キ債權者ノ申立チ至當ト認メ(住所氏名ヲシテ差押船舶ヲ監督セ  
シムルコト)又ハ(損所ノ修繕ヲ爲スヘキコト)ヲ命ス

年月日

何裁判所 判 事 氏 名

決 定

債權者 氏 名

右者債權者ノ申立ニ因リ(監督)(修繕、保存)ノ處分ヲ命シタル處債務者ハ其費用ヲ豫納セサルヲ以テ(監督)  
(保存)ノ命令ハ之ヲ取消ス

年月日

何裁判所 判 事 氏 名

(法意、申立ノ正當ナラサル時ハ右文例ニ準シ決定ヲ以テ之ヲ却下ス可シ)

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ス

トキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ効力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人ト

ス六四八、七二〇

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係

人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶力差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

其手續ヲ取消ス可シ七一八、七二六

決定

府縣市町村番地族業	債權者	氏	名
府縣市町村番地族業	債務者	氏	名
府縣市町村番地族業	所有者	氏	名
府縣市町村番地族業	船長	氏	名

右當事者間ノ年何第何號船舶強制競賣事件ニ付キ其手續ノ開始決定ヲナシタル處別紙船舶ハ開始決定以前年月日當區裁判所管轄内ナル何處ヲ出帆シ目下當管内ニ在ラサルコト明了ナルヲ以テ已ニ爲シタル強制競賣手續キハ之ヲ取消ス

年月日

何區裁判所

判事

氏

名

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ

船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ六五八

競賣期日公告ハ第六五八條ノ文例ニ準ス但シ一號ヲ左ノ如ク掲載ス可シ

一船舶ノ表示

一碇泊ノ場所

又公示掲示囑託ハ第六六一條一項ノ文例ニ準ス可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ

競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ掲示ス可キコトヲ

囑託ス可シ六六一、七一八

登記囑託書

住	所	
債權者	氏	名
住	所	
債務者(所有者)	氏	名
債權者(船長)	氏	名

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

右當事者間ノ年何第何號船舶強制執行事件ニ付キ年月日別紙目錄ノ船舶ニ對シ當廳ハ碇泊港トシテ船舶強制競賣ノ手續キテ開始決定候條其旨登記相成度及囑託候也

年月日

何區裁判所 判事 氏 名

何區裁判所(又ハ出張所)御中

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス 七二七、七二八、六二五、七一八、商五四六一五五二、船二

船舶共有權差押命令申請

- 府縣市町村番地族業 債權者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 債務者 氏 名
- 府縣市町村番地族業 所有者 氏 名

請求物件

一金何圓

元 金

請求ノ原因

債權者ハ債務者ニ對シ年月日金何圓ヲ貸與シタルニ其返済ナサ、ルニ因リ債務者ニ屬スル別紙目錄ノ共有權ニ對シ(公正證書、執行力アル判決正本)ニテ強制執行ナシ其共有權ヲ競賣ニ付シ辨濟ニ充用仕度候間右共有權ニ對シ差押命令御發シ相成度申請仕候也

申請ノ旨趣

右ノ次第ニ付キ別紙船舶ノ共有權ヲ差押フル旨御命令相成度候也

附屬書類

一債務者ノ共有權ヲ證スル書面、船舶ノ登記簿抄本、其證明書(七二七)

年月日

申請人 氏 名

何區裁判所判事 氏 名殿

命令

住所

實係民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

債權者 氏 名

住 所

債務者(所有者) 船長 氏 名

請求金額

元 金

一金何圓也

右金額ハ年月日(公證人(裁判所書記)ノ付與シタル執行力アル(何正本)ニ因リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス  
前記ノ請求金額及此申請ノ費用ノ辨濟ニ充ル爲メ債務者ノ別紙目錄ノ船舶ノ共有權ハ之ヲ差押フルモノトス  
債務者ハ差押ヘニ係ル右物件ニ對シ一切ノ處分ヲナスヘカラス

年 月 日

何區裁判所 判 事 氏 名

命 令

執達吏 氏 名

年何第何號船舶共有權差押ヘ命令事件ニ付キ差押ヘニ係ル別紙目錄ノ船舶共有權ノ(換價)(其他管理、讓渡)  
ヲ爲スコトヲ命ス

年 月 日

申請人 氏 名

(注意、此命令ノ申立ハ第六二五條ノ文例ニ準ス)

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有ス

ルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ五九六、七二六

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ商五五

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ効力ヲ生ス

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ總

用ス七二六、六二六、以下

二重ニ船舶ノ強制競賣ノ申立アル場合ハ第六四七條ノ文例ニ準スヘシ

計算及催告ハ第六二七條ノ配當表ハ第六二八條ノ全上調書ハ第六三〇條ノ全異議ノ證明書ハ第六三三條ノ全

訴ハ第六三五條ノ全判決ハ第六三六條ノ欠席判決及故障ハ第二四七條第二四八條第二五五條ノ部分配當ノ記

入ハ第六三九條ノ各文例ニ準スヘシ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘ

タルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス七二〇、六五一、七〇〇

外國及未登記ノ船舶ノ差押申請ハ第七一九條ノ文例ニ準スヘシ其他ノ附屬ノ文例モ同一ナリ但シ六五一、七

〇〇ノ手續ハ之ヲナササルナリ

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達

吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ三八二、四八四、七三二、五四一、五四四、  
執細九〇、民四〇六、四一

考七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキ

ハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコト

ヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務

者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者成ノ長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ

保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣

ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ五七二、  
五一三、

保管動産競賣許可ノ申請

債權者氏名ヨリ債務者氏名ニ係ル強制執行事件ニ付キ何々物件差押ヘニ係ル執行ノ目的以前ノ動産之レアル  
ヲ以テ債務者ニ引渡サントシタルニ債務者不在ニテ當職ニ保管罷在候處永ク保管仕候テハ費用ノミ當ミ不利  
益ニ付キ其物件ヲ競賣ニ付シ代金ヲ供託仕度候間競賣許可相成度申請仕候也

年月日

執達吏 氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

決定

執達吏 氏名

右執達吏氏名ヨリ(何々)保管動産ヲ競賣ニ付ス許可ノ申請ハ理由アルヲ以テ當裁判所ハ如左決定ス

本申請ハ之ヲ許可ス

年月日

何區裁判所 判事 氏名

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ

申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ五六六、五

六七、六二、五九四、六〇〇、六〇六一、六一四、五五八、七三五、五五九、一號

本條ノ引渡ニ關スル文例ハ第五九四條、第六〇〇條ノ文例ニ準ス

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁

判所所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス(民法執行法第十四條ヲ以テ本

項改正)

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル  
決定ノ宣言アラシムコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用  
ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

債務者ノ債務ヲ第三者履行セシムル申請

府縣市町村番地族業

債權者 氏名

府縣市町村番地族業

債務者 氏名

請求ノ原因

一債權者ヨリ債務者ニ係ル年何(第何號何々)事件ニテ年月日何裁判所ニ於テ債務者何々(作爲)(不作爲)ノ履行ヲ爲スヘキ旨判決相成候ニ債務者ハ其判決ノ如ク履行ヲサス而シテ本件ハ性質ニ於テ強制履行ヲナシ得サルモノナルニ因リ債務者ニシテ履行ヲサササル時ハ判決ハ其効ナキニ付キ債務者ノ費用ヲ以テ債務者ニ代リ第三者何々(作爲)(不作爲)ヲ履行セシメ度候也  
一債務者ハ其費用トシテ金何圓ヲ支拂フヘク請求仕候也

請求ノ旨趣

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル強制執行



右ノ次第ニ付キ債務者ニ代リ其費用ヲ以テ第三者ヲ何々(作為)(不作爲)チナサシメ且ツ其費用金何圖ヲ與フヘシト御決定相成度候也

附屬書類

一何々

年月日

債權者 氏

何裁判所判事 氏 名殿(第一審ノ受訴裁判所ナリ)

決定

府縣市町村番地族業 債權者 氏 名  
府縣市町村番地族業 債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第幾何事件ニ付キ當裁判所ハ如左決定ス

債權者ノ請求ニ係ル債務者ノ何々(作為)(不作爲)ノ債務ヲ其費用ヲ以テ第三者ナシテ之チナサシム債務者

ハ其費用トシテ金何圖ヲ債權者ニ支拂フヘシ

事實理由

債務者ハ云々ト主張シ債務者ハ云々ト答辨シ(其要點)何々ノ理由アルニ因リ(理由ヲ記ス)債務者ノ陳述ハ之ヲ採用セス仍テ主文ノ如ク決定ス

何裁判所 判事 氏 名

(注意、右決定ニハ即時抗告ヲナスコトヲ得(七三五、五五八)其文例ハ第六八〇條ニ準スヘシ)

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立

ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス(民法施行法第五十五條ヲ以テ改正)七三〇

債務直接履行命令申立

府縣市町村番地族業 債權者 氏 名  
府縣市町村番地族業

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル強制執行

債務者 氏 名

請求ノ原因

右當事者ノ年何第何號何々事件ニテ年月日貸廳ニ於テ債務者ニ何々ノ債務ヲ履行スヘキ旨判決アリテ其判決確定シタルニ債務者直接履行ヲナササルヲ以テ年月日マテニ履行ヲナスヘク若シ其期間ニ履行ヲナササルトキハ金何圓ノ損害ヲ賠償スヘク(又ハ其期間ヲ年月日トシ其期間ノ遅延毎ニ金何圓ノ損害ヲ賠償スヘク)御命令相成度候也

請求ノ旨趣

債務者ハ何々ノ債務ヲ年月日マテニ履行スヘシ其期間ニ履行セサルトキハ金何圓ヲ賠償スベシ(又ハ年月日ヨリ期間遅延毎ニ金何圓ノ損害ヲ賠償スヘシト御命令相成度候)

附屬書類

一何々

年月日

債權者 氏 名

何裁判所判事 氏 名殿

決定

府縣市町村番地族業  
債權者 氏 名  
府縣市町村番地族業  
債務者 氏 名

右當事者間ノ年何第何號何々事件ニ付キ如左命令ス

債務者ハ何々ノ判決ニテ確定シタル債務ヲ年月日マテニ直接ニ履行スヘシ若シ之ヲ履行セサルニ於テハ損害賠償トシテ金何圓ヲ支拂フヘシ(又ハ其期間ヲ遅延スル毎ニ金何圓ヲ賠償スヘシ)

理由

(債權者ハ何々ト申立)(債務者ハ何々ト答辨シ)タルモ何々理由アルヲ以テ(債權者ノ申立ハ理由アリ)(債務者ノ陳述ハ理由ナシ)ト認メ主文ノ如ク決定ス

何裁判所 判 事 氏 名

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ノ審訊ス可シ五五八、七三三、七三四

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ

實例民事訴訟法 強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル強制執行

爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス五二八、五二〇

本條ノ執行文付與ノ申請及執行文ノ各文例ハ第五一八條第五二〇條ノ文例ニ準スヘシ

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得  
假差押ハ未タ期限ニ至ラザル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得  
第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得七三七

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ

本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス一七、七六二、七四六、七四八、七五〇ノ二、五六三

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示七三八

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ二二〇

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得一三五

(不動産) 假差押申請  
(有体動産)

府縣市町村番地族業

申請人 氏 名

府縣市町村番地族業

被申請人 氏 名

請求ノ表示

實例民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

元 金

一金何圓(又ハ不特定物ノ一定ノ數量、價格)

差押ノ目的物

有体動産(債務者所有ノ)不動産(目録ニ記載スヘシ)

假差押ノ理由タル事實

申請人ハ年月日被申請人ニ金何圓ヲ貸與シ年月日辯濟ノ約束ナリシニ之カ辯濟ヲナササルヲ以テ申請人ハ被申請人ニ對シ右請求ノ訴ヲナサントスルニ被申請人ハ其訴ノ提起ヲ探知シ其判決ノ執行ヲ免レント圖策シ其所有ノ總テノ有体動産ヲ賣却(又ハ其所有ノ不動産ヲ他ニ讓渡セント)スルノ恐レアルヲ以テ前記判決ノ執行ヲ保全スル爲メ債務者ノ所有ノ(有体動産)又ハ別紙目録ノ不動産)ニ對シ假差押御命令發セラレ度請求仕候也

保證令ハ御命令次第供託可仕候也

請求ノ旨趣

右ノ次第ニ付キ被申請人所有ノ(總テノ動産又ハ不動産)ヲ假ニ差押(不動産ナレハ賣買、讓渡、抵當、質入、禁止)ノ御命令相成度

申請仕候也

附屬書類

一例々

年 月 日

申請人

氏

名

何裁判所判事 氏 名殿

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

一〇四、七六三

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得入七

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

命 令(注意、此命令ニテ供託シタルトキ次示ノ文例ノ命令ヲ發ス可シ)

實例民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分